

(別冊1)

政策評価シート(総括票)原案

千 葉 市

【 目 次 】

方向性1 豊かな緑と水辺を活かした、自然とともに生きるまちへ

- 1－1 豊かな自然を守り、はぐくむ・・・・・・・・・・ 1
- 1－2 緑と花のあふれる都市空間を創る・・・・・・・・・・ 2
- 1－3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る・・・・・・・・・・ 3

方向性2 支えあいやすらぎを生む、あたたかなまちへ

- 2－1 健康で活力に満ちた社会を創る・・・・・・・・・・ 4
- 2－2 こどもを産み、育てやすい環境を創る・・・・・・・・・・ 5
- 2－3 とともに支えあう地域福祉社会を創る・・・・・・・・・・ 6
- 2－4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る・・・・・・・・・・ 7
- 2－5 障害のある人が自立して暮らせる共生社会を創る・・・・・・・・・・ 8

方向性3 豊かな心が育ち、新たな価値が生まれるまちへ

- 3－1 未来を担う人材を育成する・・・・・・・・・・ 9
- 3－2 生涯を通じた学びとスポーツ活動を支える・・・・・・・・・・ 10
- 3－3 文化を守り、はぐくむ・・・・・・・・・・ 11
- 3－4 多彩な交流・連携により新たな価値を創る・・・・・・・・・・ 12
- 3－5 市民の力をまちづくりの力へ・・・・・・・・・・ 13

方向性4 ひと・モノ・情報がつながる、生活基盤の充実した安全で快適なまちへ

- 4－1 市民の安全・安心を守る・・・・・・・・・・ 14
- 4－2 快適な暮らしの基盤をつくる・・・・・・・・・・ 16
- 4－3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる・・・・・・・・・・ 17

方向性5 ひとが集い働く、魅力と活力にあふれるまちへ

- 5－1 都市の魅力を高める・・・・・・・・・・ 18
- 5－2 地域経済を活性化する・・・・・・・・・・ 19
- 5－3 都市農林業を振興する・・・・・・・・・・ 21

区基本計画

- 中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、緑区、美浜区・・・・・・・・・・ 22～27

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱

1－1 豊かな自然を守り、はぐくむ

基本方針

市民がうるおいとやすらぎを感じることができる自然共生社会を目指して、生物多様性の確保に配慮しながら、豊かな緑と水辺の保全・活用や、やすらぎとにぎわいのある海辺づくりを進めます。

担当局（区）

都市局

環境局

経済農政局

評価区分

D

政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない

【評価の理由・説明】

中間目標値を超えた指標は、「谷津田の保全活動等の参加者数」であり、谷津田保全協定の締結や自然観察会などの取組みを着実に進めていることが要因と考えられる。

一方、「里山の保全活動参加者数」は、森林ボランティア団体の高齢化が進み、H23末時よりも増えているものの目標値には到達しなかったほか、「市内の花や緑は豊かだと感じる」や「市街化区域の緑地の割合」は、市民生活で目にすることが多い緑に係る事業に未達成なものが多く、指標の数値がH23末現状値と比較して現状維持もしくは未満となっている。また、「市内の海辺に魅力を感じる」や「１年間に、レジャーなどで市内の海辺を訪れたことがある」の海辺に関する指標は、稲毛海浜公園の利用者数は増えているものの、計画事業「稲毛海浜公園の改修」や「千葉中央港地区まちづくり推進」などのハード整備の進捗状況が「実施設計」や「工事」の段階であるため、特にあまり海辺を訪れたことのない市民の関心を高める状況には至っていないと考えられ、全体的に評価の向上につなげていない。

【今後の取組みの方向性】

「豊かな自然を守り、はぐくむ」ため、これまで、様々な取組みを実施してきたところであり、特に、やすらぎとにぎわいのある海辺づくりについては、これまで整備を進めてきた千葉中央港地区の旅客船さん橋、港湾緑地、ターミナル等の一部と稲毛海浜公園検見川地区の民間事業者による活性化施設が平成27年度末に完成する予定である。今後、これら施設を積極的・有効的に活用するとともに、周辺施設との連携、イベントの開催などを展開していくことにより、さらなる海辺の魅力向上を図っていく。また、多くの市民に海辺を訪れてもらうためには、これらの取組みを知ってもらうことが重要であるため、様々な機会を通じてPRを行っていく。

谷津田や里山、緑などの保全・活用については、これまでの取組みを引き続き実施していくとともに、関連する成果指標の向上を目指すには、市民や事業者の理解・協力が必要不可欠であることから、各事業の魅力・意義などをイベントや広報等でPRするなど、活動の参加者・協力者を増やすための取組みを行う。

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A: 4. 5点以上、 B: 3. 0点以上4. 5点未満、 C: 1. 5点以上3. 0点未満、 D: 0点以上1. 5点未満、 E: 0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
1	市内の花や緑は豊かだと感じる	61.4	64.0	67.0	70.0	61.4			△	1
2	身近な水辺に親しみを感じる	46.5	48.0	49.0	50.0	46.7			△	1
5	市内の海辺に魅力を感じる	36.8	41.0	46.0	50.0	37.9			△	1
6	この１年間に、レジャーなどで市内の海辺を訪れたことがある	41.4	44.0	47.0	50.0	38.9			×	－1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
3	市街化区域内の緑地の割合(%)	10.3	10.5	10.7	11	10.2			×	－1
4	谷津田の保全活動等の参加者数(人)	409	440	470	500	519			◎	5
171	里山の保全活動参加者数(人)	111	200	400	600	150			△	1

平均点

1.0

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
1－1－1	20	12	谷津田保全協定の締結や里山の保全は、計画内容どおり概ね達成。公園緑地の整備（都川水の里公園）は、計画どおり達成。
1－1－2	14	2	「稲毛海浜公園の改修」の検見川地区における民間による活性化施設整備並びに千葉中央港地区のさん橋・旅客船ターミナル等一部施設については、27年度末供用開始予定。海辺を訪れたことのない市民が一定程度存在するが、レッドブルエアレースの開催等により、本市海辺の認知度は高まってきている。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	1－2 緑と花のあふれる都市空間を創る
------	---------------------

基本方針	緑と花のあふれる魅力的な都市空間を創出するため、公園緑地の充実や都市緑地化、花のあふれるまちづくりを進めます。
------	---

担当局 (区)	都市局
------------	-----

評価 区分	D	政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない
【評価の理由・説明】 達成状況が低い指標が多くを占める中で、「大規模な公園の利用者数」については、中間評価の目標値を上回る結果となった。これは、蘇我スポーツ公園内において、フクダ電子フィールドや、フクダ電子ヒルスコートが整備され、利用者が増加したことなどが要因と考えられる。 一方、「地域で日常管理・運営を行う公園数」や「日頃、花作りや植樹などの緑化活動を行っている」については、パークマネジメントなどを進めているものの、身近な公園において花壇づくりなどを行う花いっぱい市民活動団体のメンバーの高齢化により、活動継続が困難となる団体も発生しているため、活動団体数が増加せず、結果として地域で日常管理・運営を行う公園数や緑化活動を行う市民の割合が減少している。 また、生活実感指標のうち、「身近な公園に親しみを感じる」「緑豊かでレクリエーションを楽しめる大きな公園が充実している」については、平成23年末現状値から下がっているが、この要因としては、公園緑地整備等の計画事業の進捗が達成している事業もある中で、市民の印象を変えることや公園施設に対する認知度の向上までには至っておらず、全体の評価向上につながない。		
【今後の取組みの方向性】 「緑と花のあふれる都市空間を創る」ため、これまで、ソフト事業からハード事業まで、様々な取組みを実施してきたところであるが、多くの指標で中間目標値を達成することができなかった。平成33年度末を整備終了年度としている蘇我スポーツ公園の完成をはじめ動物公園のリニューアルや公園施設の改修などハード事業を着実に進めるとともに、公園施設のPR等を工夫するなど、市民の満足度の向上に努める必要がある。 また、ソフト事業においては、パークマネジメントや市民との協働による公園管理を引き続き推進するとともに、花いっぱい地域活動のための活動団体数が高齢化により増加せず目標値に達しない現状を踏まえ、多くの年齢層が活動できる工夫などの取組みを実施していく。 さらに、緑化協定の締結の推進や屋上・壁面緑化助成制度を活用したまちなかの民有地の緑地確保などについても、助成内容の見直しを図り、PR・広報を充実させるとともに企業等との協議を粘り強く実施し、市民が緑を感じられる取組みを進めていく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A: 4. 5点以上、 B: 3. 0点以上4. 5点未満、 C: 1. 5点以上3. 0点未満、 D: 0点以上1. 5点未満、 E: 0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
7	身近な公園に親しみを感じる	54.7	58.0	62.0	65.0	50.8			×	－1
8	緑豊かでレクリエーションを楽しめる大きな公園が充実している	55.4	57.0	59.0	60.0	55.1			×	－1
11	まちなかに緑が多い	50.5	52.0	53.5	55.0	51.4			○	3
12	日頃、花作りや植樹などの緑化活動を行っている	21.1	23.0	24.0	25.0	15.3			×	－1
1	市内の花や緑は豊かだと感じる	61.4	64.0	67.0	70.0	61.4			△	1

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
9	地域で日常管理・運営を行う公園数(公園)	439	451	469	500	433			×	－1
10	大規模な公園の利用者数(万人)	291	309	326	350	315			◎	5
13	花いっぱい市民活動団体数(団体)	441	468	477	489	442			△	1

平均点

0.8

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
1－2－1	23	9	蘇我スポーツ公園や動物公園のリニューアル、大規模公園の改修などを計画どおり実施。パークマネジメントの推進についても、計画どおり達成。
1－2－2	1	3	「工場・事業所等の緑化の推進」は、事業進捗は概ね達成しているが、H26年4月に施行した「千葉市工場等緑化推進要綱」の改正により、工場等の緑地が大きく減少。
1－2－3	8	9	花いっぱい市民活動団体において、高齢化が進んでおり、団体数が減少してる。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱1－3 環境に配慮した低炭素・循環型社会を創る

基本方針低炭素社会・循環型社会の現実を目指して、地球温暖化対策や3Rの推進、良好な生活環境の確保などを進めます。

担当局（区）環境局

評価区分C政策の目的達成に向け順調に成果が現われている

【評価の理由・説明】
「市内の空気や川などの水はきれいだと感じる」は、中間目標値は超えなかったものの、前回時より4.3ポイント上昇した。客観指標「大気環境目標値達成項目の割合」や「水質環境目標値達成項目の割合」に示されるとおり、これまでの大気汚染対策や水質汚濁対策の効果が着実に表れていることが要因と考えられる。
また、「日頃、ごみの量を減らすことや、リサイクルに取り組んでいる」は、前回とほぼ同程度の結果となったが、客観指標「市民1人1日あたりのごみ排出量」ではごみ排出量が着実に減っており、「ごみの再生利用率」も前回時より2.2ポイント増と、市民の意識は確実に高まっており、それが実績に繋がっている状況である。
一方、「日頃、省エネルギーに取り組んでいる」、「この1年間に、美化・環境保全活動をしたことがある」は、前回時よりもポイントが下がった。「日頃、省エネルギーに取り組んでいる」は、平成23年3月に発生した東日本大震災やこれに伴う原子力発電所の事故により電力の安定供給が懸念され、省エネルギーに取り組む機運が高まったが、震災から3年が経過し、その懸念が低くなったことから、国の設備認定を受けている太陽光発電設備のうち、実際に稼働している設備は3割程度(26年度末)しか至らず、省エネルギーに対する意識も低下したものと考えられる。「この1年間に、美化・環境保全活動をしたことがある」は、「美しい街づくりに係る活動支援」や「環境学習モデル校事業」を通して美化活動や環境保全活動の活性化を図ってきたが、幅広く市民に浸透しなかったものと考えられる。

【今後の取り組みの方向性】
低炭素社会・循環型社会の実現を目指し、この3年間様々な取り組みを実施しており、客観指標を見ると比較的順調に進んでいるが、生活実感・行動指標の値はそれほど伸びていない。
「市内の空気や川などの水はきれいだと感じる」については、市民の関心が高い光化学スモッグの原因となる大気中の酸化性物質の総称である光化学オキシダントやPM2.5などが環境目標値未達成の状況であることが一因と考えられるため、現行の施策を継続するとともに、国等の検討状況を注視しつつ、第2次実施計画事業である「大気環境測定の推進」などを着実に推進していく必要がある。
「日頃、ごみの量を減らすことや、リサイクルに取り組んでいる」は、ごみ減量や再資源化を推進する各種施策があるものの、その取り組みが十分利用されていないため、積極的に住民説明会等の広報等を行いつつ、第2次実施計画事業である「古紙・布類の資源化拡充」なども推進していく必要がある。
「日頃、省エネルギーに取り組んでいる」と「この1年間に、美化・環境保全活動をしたことがある」については、「環境フェスティバル」など様々な機会を捉え、市民一人ひとりの関心と意識の向上を図っていく。

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A: 4. 5点以上、 B: 3. 0点以上4. 5点未満、 C: 1. 5点以上3. 0点未満、 D: 0点以上1. 5点未満、 E: 0点未満

生活実感・行動指標

(%)										
指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
14	日頃、省エネルギーに取り組んでいる	67.0	72.0	76.0	80.0	56.3			×	-1
17	日頃、ごみの量を減らすことや、リサイクルに取り組んでいる	69.7	74.0	77.5	80.0	69.9			△	1
20	市内の空気や川などの水はきれいだと感じる	23.0	29.0	35.0	40.0	27.3			○	3
25	この1年間に、美化・環境保全活動をしたことがある	22.5	25.0	27.5	30.0	21.0			×	-1

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
15	温室効果ガス排出量削減率(%)	5	—	平成27年度に 目標値設定	平成27年度に 目標値設定	2				
16	再生可能エネルギー等の導入量(メガワット)	148	336	518	700	205			△	1
18	市民1人1日あたりのごみ排出量(g/人・日)	1094	1047	1045	1043	1051			○	3
19	ごみの再生利用率(%)	32	33.8	34.6	35	33.7			○	3
21	大気環境目標値達成項目の割合(平成23年度達成4項目) (%)	100	現状維持 (100)	現状維持 (100)	現状維持 (100)	100			◎	5
22	大気環境目標値達成項目の割合(平成23年度未達成3項目) (%)	0	—	33.3	66.6	33.3				
23	水質環境目標値達成項目の割合(平成23年度達成31項目) (%)	100	現状維持 (100)	現状維持 (100)	現状維持 (100)	100			◎	5
24	水質環境目標値達成項目の割合(平成23年度未達成5項目) (%)	0	20	—	40	20			◎	5
4	谷津田の保全活動等の参加者数(人)	409	440	470	500	519			◎	5

平均点2.6

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
1－3－1	12	10	「下水道施設の地球温暖化対策」や「公共施設への太陽光発電設備の推進」など公共施設への取り組みは概ね計画どおり進んだが、市民向けの「太陽熱利用給湯システム設置助成の推進」や、事業者向けの「地球温暖化対策の推進」などの施策については、引き続き周知や働きかけが必要。震災から3年が経過し省エネに取り組む機運が薄くなり、市内家庭における温室効果ガス排出量は増加傾向。
1－3－2	12	18	「3R教育・学習の推進」は計画どおり進んだが、「ごみ減量・再資源化の推進」は一部制度の拡充を行ったものの目標達成には至らなかった。平成26年2月から家庭ごみ手数料徴収制度を開始し、26年度の焼却ごみが25万531トンとなり、16年度比で焼却ごみを約3分の1減らし25万4千トンにする目標を達成した。
1－3－3	18	7	「大気環境測定の充実」や「水質汚濁対策事業」、「生活排水対策事業」、「川や海の水質保全」は計画どおり進んだ。
1－3－4	6	3	「環境学習・環境教育の推進」や「美しい街づくりに係る活動支援」は順調に進んだ。「地域環境保全自主活動事業補助金」等は引き続き啓発が必要。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	2－1 健康で活力に満ちた社会を創る
------	--------------------

基本方針	市民が健康でいきいきと暮らせるよう、健康づくりを推進し、医療体制を充実するとともに、食の安全と環境を推進します。
------	--

担当局（区）	保健福祉局 病院局
--------	-----------

評価区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】 「がん検診受診率」「必要なときに適切な医療を受けられるので安心だと感じる」「安全な食品が手に入るので安心だと感じる」はH26末目標値を大きく上回った。 一方で、「日頃、健康づくりに取り組んでいる」「かかりつけ医を持っている」「夜急診における軽度の患者の割合」は、指標を構成する事業の多くが事業目標を達成しているにも関わらず、意識啓発事業の未達により、「健診への無関心層」に有効な働きかけができなかったため、H23年度現状値を下回った。生活実感・行動指標については、健康づくりの概念について、回答者の年代や性別などにより個人差が出ていることも考えられる。 「入院が必要な患者の積極的な受入れ」及び「特定健康診査実施率」は、中間目標値には届かなかったが、市立病院では看護師等修学資金貸与制度等により市立病院の看護師を確保したり、市内病院、診療所等の医療提供体制の充実強化が図られたため、3年間の取組の効果によりH23年度実績より高い数値を示している。 以上のことから、一部成果の発露が遅れている事業があるものの、おおむね順調に政策の成果が現れているといえる。		
【今後の取組みの方向性】 健康づくりの推進のため、関係部門や機関との連携により、年代等に合わせた健康づくり行動への支援方法について検討し、スポーツやレクリエーションが健康づくりのための行動であることを周知する取組みや個人の手元に届く健康情報の提供方法等の充実を図るとともに、特定健康診査への無関心層に届くよう周知方法等の工夫や電話勧奨を行うことにより、「特定健康診査実施率」を向上させるほか、各種集団検診での受診促進や未受診者への個別勧奨を実施することにより、引き続き「がん検診受診率」の向上を図る。 また、医療体制の充実のため、市立病院の課題である看護職員の確保や、看護職員の勤務体制確立による離職防止に取り組むことにより、「入院が必要な患者の積極的な受入れ」の人数を増加させるほか、「かかりつけ医を持っている割合」や「夜急診における軽度の患者の割合」を増加させるため、地域包括ケアシステムの構築を進めると並行して、医療機関相互の連携促進などの取組みを進めるとともに、市政だより・市ホームページを活用した周知やリーフレットの作成・配布による周知を行う。 さらに、「必要なときに適切な医療を受けられるので安心だと感じる」実感の割合を維持するため、市内医療機関の機能分担、連携強化を推進し、医療体制の充実に取り組む。 このほか、食の安全の推進のため、監視指導計画の実施・結果の情報提供や、食品の放射性物質検査を継続することにより、「安全な食品が手に入るので安心だと感じる」割合を向上させる。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

（％）										
指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
26	日頃、健康づくりに取り組んでいる	56.2	60.0	62.5	65.0	51.3			×	－1
31	必要なときに適切な医療を受けられるので安心だと感じる	63.6	65.7	67.8	70.0	67.5			◎	5
32	かかりつけ医を持っている	64.2	66.1	68.0	70.0	64.0			×	－1
35	安全な食品が手に入るので安心だと感じる	49.7	53.0	56.5	60.0	57.2			◎	5

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
27	特定健康診査実施率(％)	32.5	39.0	45.0	H30に 目標値設定	33.4			△	1
28	がん検診受診率(％)	38.7	41.4	44.0	50.0	46.4			◎	5
29	肥満者の割合(男性)(％)	28.0	－	26.0	25.0	－				
30	肥満者の割合(女性)(％)	15.8	－	14.0	13.0	－				
33	入院が必要な患者の積極的な受入れ(両市立病院の新規入院患者数)(人)	13,607	15,871	21,472	H30に 目標値設定	14,515			△	1
34	夜急診における軽度の患者の割合(％)	49.1	47.3	45.4	43.5	49.5			×	－1

平均点

1.8

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
2－1－1	28	12	健康づくりの推進としては、がん検診においてクーポン券の送付により受診者が増加したが、特定健康診査の状況から「健診への無関心層」には、健康への意識の低さ、過信がある。
2－1－2	15	8	海浜病院ではリニアック棟の整備が完了したほか、青葉病院ではH27年度中に救急処置棟が完了見込みであり、市立病院の医療体制の充実が図られている。医療体制充実のため、看護師不足、看護師の離職が課題。
2－1－3	4	0	食の安全の推進として、市の食品衛生監視指導計画を着実に実施することができた。またホームページを使い、監視結果や検査結果などの速やかな公表に努めた。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	2－2 こどもを産み、育てやすい環境を創る
------	-----------------------

基本方針	こどもを安心して産み、育てやすい環境を創るため、子育て支援を充実するとともに、子どもの健全育成を推進します。
------	--

担当局（区）	こども未来局 教育委員会
--------	--------------

評価区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】 「市内の子どもや若者は健全に育っている」、「地域にこどもが安心できる場所がある」については、中間報告値を上回っており、これは、子ども・若者総合相談センターの設置・運営やこどもカフェの運営等を着実に実施していることが要因と考えられ、関連する客観指標である「街頭補導1回あたりの青少年の補導人数」の数値にも現れている。 また、「仕事と家庭生活を両立する支援が充実している」、「安心して出産できるまちだと感じる」については、目標値に届かなかったものの、待機児童2年連続ゼロ達成など、子育て支援施策を積極的に推進していることから、指標の数値は上昇しており、事業の効果が表れているといえる。 一方で、「こどもが地域の大人たちに見守られながら育っている」については、各種事業を実施しているにもかかわらず、一部の支援策などについて十分に認知されていないことも考えられ、市民における生活実感につながっていない現状が見られる。放課後子ども教室等、地域の大人がこどもにかかわっていく取組みの事業内容・効果が市民にうまく認知されていない。 【今後の取組みの方向性】 子育て支援から青少年健全育成まで、様々な事業を実施しており、待機児童対策などにおいては、2年連続待機児童ゼロを達成し、「仕事と家庭生活を両立する支援体制が充実している」の数値も上昇していることから、効果が表れているといえる。 しかしながら、「安心して出産できるまちだと感じる」については、指標を構成する事業の7割程度が目標を達成しているにもかかわらず、数値の伸びが小さい。これは妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援のため実施している施策が、一部進捗遅れであること、また、市民に十分に認知されておらず、生活実感につながっていない可能性が考えられる。 また、「こどもが地域の大人たちに見守られながら育っている」については、指標を構成する各事業が目標を達成しているにもかかわらず、生活実感等に反映されていない状況となっている。こちらについても、事業内容・効果等が市民にうまく認知されていないことが原因と考えられるため、より市民に分かりやすい方法でPR・広報等を実施していく必要がある。 今後においては、効果を上げている事業を、より一層推進するとともに、市民へのPR・広報という点にも留意しながら、「こどもを産み育てたい、こどもがここで育ちたいと思うまち「ちば」の実現」に向けて、施策を展開していく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A: 4. 5点以上、 B: 3. 0点以上4. 5点未満、 C: 1. 5点以上3. 0点未満、 D: 0点以上1. 5点未満、 E: 0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
36	仕事と家庭生活を両立する支援体制が充実している	14.8	25.0	36.0	50.0	21.0			○	3
37	子育ての不安や悩みを解消するための相談体制などが充実している	37.4	44.0	51.0	60.0	37.8			△	1
38	安心して出産できるまちだと感じる	29.5	36.0	42.0	50.0	31.0			△	1
42	市内のこどもや若者は健全に育っている	33.3	35.0	37.0	40.0	37.8			◎	5
43	地域にこどもが安心できる居場所がある	32.8	35.0	37.0	40.0	39.5			◎	5
44	こどもが地域の大人たちに見守られながら育っている	33.7	36.0	38.0	40.0	32.3			×	-1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
39	保育所待機児童数(人)	123	96	0	0	0			◎	5
40	子どもルーム待機児童数(人)	96	57	21	0	364			×	-1
41	ファミリー・サポート・センター活動件数(件)	9,633	10,000	10,500	11,000	11,992			◎	5
45	街頭補導1回あたりの青少年の補導人数(人)	1.78	1.5	1.2	1	0.56			◎	5
72	放課後子ども教室参加率(%)	13.0	13.5	14	14.5	12.8			×	-1

平均点	2.5
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
2－2－1	41	29	「グループ型小規模保育の拡充」については待機児童の解消に寄与することから前倒しで実施。「保育所の整備」については、待機児童の点在化や子ども・子育て支援新制度の施行を踏まえ、一部整備手法を変更したが、事業目的は達成した。多様な保育需要や保護者の子育てに関する様々な不安や悩みが増えている。
2－2－2	21	14	「こどもカフェの運営」「子ども・若者支援体制の充実」は計画どおり実施。「子どもルームの拡充」は未達成となっているものの、より緊急性の高い移転を重点的に実施し、施設改善に努めた。こどもたちを見守る地域の大人の担い手が不足している。

様式
政策評価シート【総括票】

施策の柱2－3 ともに支えあう地域福祉社会を創る

基本方針ともに支えあうあたたかな社会を築くため、様々な主体の参画・連携による地域福祉を充実します。

担当局（区）保健福祉局 総務局

評価区分D政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない

【評価の理由・説明】

「ボランティア登録者数(人)」は中間目標値を上回った一方、「この1年間に、地域福祉活動に参加したことがある」は周知不足等により、市民の安心感につながっていないと考えられる。また地域における若者層のボランティア活動者が増えていない。

「困ったときは地域で支えあうことができるので安心だと感じる」、「一人暮らしや支援の必要な高齢者が、地域で見守られて安心して暮らすことができる」、「障害に対する理解が進み、障害のある人が地域で暮らしやすくなっている」及び「災害時地域支えあい事業取組団体数」は、中間目標値には届かなかったが、3年間の取組みの効果により、H23年度実績より高い数値を示している。

上記の状況の反面、各指標を構成する事業のうち8割の事業は目標を達成していることから、事業の成果が市民の生活実感や行動に結びついていないと考えられる。

【今後の取組みの方向性】

地域福祉の充実のため、地域活性化支援事業を全区で実施していくほか、平成26年度に策定した「支え合いのまち千葉 推進計画(第3期千葉市地域福祉計画)」に基づく取組みを進め、地域住民等が主体となった共助の取組みを市と社会福祉協議会が連携して支援し、地域福祉活動の活性化や担い手の増加について一層の促進を図ることにより、「困ったときは地域で支えあうことができるので安心だと感じる」の実感や、「地域福祉活動に参加したことがある」割合を向上させていく。また、防災の視点からの共助の取組みである「災害時地域支えあい事業取組団体数」については、「千葉市避難行動要支援者名簿に関する条例」に基づく地域への名簿提供の制度を活用して、避難行動要支援者の支援体制構築を進めていく。地域包括ケアシステム構築の推進により、地域で支え合う仕組みの強化、及び様々な活動主体を育成していくことで、地域で見守られて安心して暮らすことができるという実感の醸成を図る。

さらに、障害者福祉大会の開催・心のふれあいフェスティバルの開催など、障害者への理解促進のための普及啓発事業にも引き続き取り組むとともに、就労支援事業の充実など障害者の自立した生活を促進していくことにより、「障害に対する理解が進み、障害のある人が地域で暮らしやすくなっている」実感を向上させる。

このほか、H26末目標値を大きく上回った「ボランティア登録者数(人)」についても、引き続きH33年度末の目標値達成を目指し取り組む。

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
46	困ったときは地域で支えあうことができるので安心だと感じる	23.1	29.0	35.0	40.0	26.0			△	1
47	この1年間に、地域福祉活動に参加したことがある	15.3	19.0	22.0	25.0	12.7			×	-1
52	一人暮らしや支援の必要な高齢者が、地域で見守られて安心して暮らすことができる	22.9	30.0	37.0	45.0	25.8			△	1
59	障害に対する理解が進み、障害のある人が地域で暮らしやすくなっている	16.1	20.0	25.0	30.0	17.5			△	1

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
48	ボランティア登録者数(人)	8,870	9,250	9,620	10,000	9,393			◎	5
114	災害時地域支えあい事業取組団体数(団体)	66	138	246	438	71			△	1

平均点1.3

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
2－3－1	24	6	東日本大震災を契機に市民の間で地域福祉の重要性は再認識されている。 地域における活動について、若年層の参加が進んでおらず、高齢化・固定化が進んでいる。 若葉区のみで実施していた地域福祉団体活動支援事業については、地域活性化支援事業として全区で実施していく。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱2－4 高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を創る

基本方針高齢者が心豊かに暮らせる長寿社会を築くため、介護予防や生きがいづくりを促進するとともに、地域生活支援者や介護保険サービスを充実します。

担当局（区）保健福祉局

評価区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】		
日常生活の支援や地域づくりにおける担い手として、元気な高齢者が幅広い分野で活躍できる仕組みを整え始めたり、あんしんケアセンターが民生委員やケアマネージャー等と顔の見える関係を築いてきたことにより、「介護保険サービス事業所数」「あんしんケアセンターにおける相談受付件数」については、中間目標値を上回り、「この1年間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがある」については、中間目標値には届かなかったものの、3年間の取組みの効果により、H23年度実績より高い数値を示している。 「高齢者が、生きがいを持ちいきいきと暮らしている」「介護・支援を必要としない高齢者の割合」「一人暮らしや支援の必要な高齢者が、地域で見守られて安心して暮らすことができる」「ヘルパー事業所や施設など、高齢者の介護を支えるサービスの提供体制が身近に充実している」については、様々な取組みを行っているが、H23年度実績からの微増にとどまっている。		
【今後の取組みの方向性】		
介護予防と生きがいづくりの促進のため、健康でいきいきと自立した生活を続けられるための地域包括ケアシステムの構築を進め「高齢者が、生きがいを持ちいきいきと暮らしている」実感を向上させるとともに、元気アップ教室など、健康づくりや介護予防に関する取組みを継続・充実していくことにより、「介護・支援を必要としない高齢者の割合」を向上させる。 また、地域生活支援の充実のため、高齢者の増加に伴う日常生活圏域を再設定し、あんしんケアセンターを増設することに加え、職員を増員し、より多く市民が気軽に相談できるよう機能強化を図るとともに、地域見守り活動への支援・認知症サポーター養成などの取組みを継続・充実していくことにより、「一人暮らしや支援の必要な高齢者が、地域で見守られて安心して暮らすことができる」実感を向上させる。 さらに、介護保険サービスの充実のため、「介護保険サービス事業所数」については引き続き情報提供などにより、定期巡回・随時対応型訪問介護看護など地域包括ケアシステムの中心となるサービス事業者の参入を促すほか、特別養護老人ホームの整備の助成や、資格取得費助成の要件緩和を実施して介護人材を確保していくことにより、「ヘルパー事業所や施設など、高齢者の介護を支えるサービスの提供体制が身近に充実している」実感を向上させていく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標（％）

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
49	高齢者が、生きがいを持ちいきいきと暮らしている	27.1	35.0	43.0	50.0	27.2			△	1
50	この1年間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがある	23.8	30.0	35.0	40.0	27.7			○	3
52	一人暮らしや支援の必要な高齢者が、地域で見守られて安心して暮らすことができる	22.9	30.0	37.0	45.0	25.8			△	1
54	ヘルパー事業所や施設など、高齢者の介護を支えるサービスの提供体制が身近に充実している	33.5	40.0	45.0	50.0	34.9			△	1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
51	介護・支援を必要としない高齢者の割合（％）	85.0	86.0	87.0	88.0	85.1			△	1
53	あんしんケアセンターにおける相談受付件数（件）	20,943	33,000	39,000	43,000	33,622			◎	5
55	介護保険サービス事業所数（か所）	1,192	1,400	1,600	1,800	1,435			◎	5

平均点2.4

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況			主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成		
2－4－1	15	4		2025年には、団塊の世代が75歳以上（後期高齢者）になるなか、いきいきプラザ・いきいきセンターについて、必要な改修を行うなど、確実に管理運営した。
2－4－2	9	0		あんしんケアセンターを12か所増設するとともに、職員を増員し、周知活動を積極的に行った。
2－4－3	8	4		今後高齢化が進み、市民の医療や介護需要が進む。しかし、小規模特別養護老人ホームの整備について、整備コストの高騰にも関わらず定員が29人と少ないため事業者の参入が低調となった。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	2－5 障害のある人が自立して暮らせる共生社会を創る
------	----------------------------

基本方針	障害のある人が自立して暮らせる共生社会を築くため、医療体制・相談支援や地域生活支援を充実するとともに、就労支援と社会参加を促進します。
------	---

担当局（区）	保健福祉局
--------	-------

評価区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】		
発達障害等児童の療育に関する相談が増加し、「療育相談所における相談件数」はH26末目標値を大きく上回った。また、就労意向のある障害者に就労、生活面への一体的な就労支援を行うとともに、企業等の相談にも対応した結果、「新たに就労した障害のある人の数」もH26末目標値を上回った。 一方で「障害者相談支援事業における相談件数」は、別の事業である障害福祉サービス利用者の相談窓口の整備が進んだ結果、H23年度現状値を下回った。「地域で生活するようになった障害のある人の数」「障害に対する理解が進み、障害のある人が地域で暮らしやすくなっている」は、中間目標値には届かなかったが、3年間の取組の効果により、H23年度実績より高い数値を示している。 以上のことから、成果の発露が遅れている事業が一部あるものの、おおむね順調に政策の成果が表れているといえる。		
【今後の取組みの方向性】		
H23年度現状値を下回った「障害者相談支援事業における相談件数」は、必要に応じて類似事業との整理・統合の検討も視野に入れたうえで、引き続き障害のある人が地域で安心して暮らせる相談支援体制を充実していく。一方、「療育相談所における相談件数」は、待機期間の短縮という課題解決のため、業務内容の精査等を行うほか、必要により、職員の増員やスペースの確保等に取り組む。 また、地域生活支援の充実のため、「地域で生活するようになった障害のある人の数」については、地域生活の主な受け皿となるグループホームの整備を引き続き進めていくとともに、参入が進む民間企業を活用しながら相談機能の一層の充実などに取り組む。 さらに、就労支援と社会参加の促進のため、引き続き障害者福祉大会の開催など障害者の理解促進のための普及啓発事業に取り組むほか、障害者差別解消法（平成28年4月施行）の趣旨に基づいた取組みの必要性を企業や市民に周知していくことにより、「障害に対する理解が進み、障害のある人が地域で暮らしやすくなっている」割合を向上させる。また、障害者職業能力開発プロモート事業・障害者職場実習事業などの就労支援事業をより充実させていくことにより、「新たに就労した障害のある人の数」を増やしていく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
59	障害に対する理解が進み、障害のある人が地域で暮らしやすくなっている	16.1	20.0	25.0	30.0	17.5			△	1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
56	療育相談所における相談件数(件)	472	520	560	620	619			◎	5
57	障害者相談支援事業における相談件数(件)	31,900	43,000	54,000	68,700	23,799			×	－1
58	地域で生活するようになった障害のある人の数(人)	275	436	470	510	394			○	3
60	新たに就労した障害のある人の数(人)	315	410	500	615	439			◎	5

平均点	2.6
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況			主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成		
2－5－1	4	0		地域活動支援センター（I型）を2か所整備し、各区1か所とした。
2－5－2	5	4		障害者グループホーム・ケアホームの整備を支援した結果、18施設増の70施設となった。
2－5－3	6	2		障害者差別解消法が28年4月に施行される予定であり、25年1月より障害者の法定雇用率も1.8%から2.0%に引き上げられた中、障害者福祉大会・心のふれあいフェスティバルなどを確実に開催するとともに、障害者職業能力開発プロモート事業を実施した。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱3－1 未来を担う人材を育成する

基本方針未来を担う人材を育成するため、教育の振興やこどもの参画を進めます。

担当局（区）教育委員会 こども未来局

評価区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】 中間目標値を超えた指標として、「No.61.こどもが、学校でいきいきと学び、心身ともに健やかに成長している」があり、これは、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」の充実の成果が総合的に表れていると考えられ、それは客観指標「No.67・68.不登校児童生徒の学校復帰率」「No.64・65.千葉県運動能力証の合格率（小・中学生）」にも表れている。 同じく中間目標値を超えた指標として、「No.62.学校でのこどもの安全が守られている」があり、これは、ハード事業（校舎や屋内運動場の耐震化、学校防犯カメラの設置等）やソフト事業（セーフティウッチの推進）の両面から取組みを進めたことが要因と考えられ、それは客観指標「No.71.学校セーフティウォッチャーの登録者数」にも表れている。 一方で、個々の取組みの効果が直接現れる、客観指標「No.71.学校セーフティウォッチャーの登録者数」「No.74.子どもの参画事業参加人数」の値は向上しているにもかかわらず、「No.69.日頃、地域でこどもへの声かけや見守り活動を行っている」「No.73.こどもが地域などで意見を述べる場・発言する場がある」のような、様々な取り組みが融合して成果が現れる、総合的な指標についての評価につながない現状がある。 また、「No.70.市内の学校は地域に開かれている」については様々な取組みを進めたが、「施策3-1-2 地域の教育力の向上」において未達成事業が数多くあった現状が影響していると考えられ、その一端は客観指標「No.72.放課後子ども教室参加率」の値に表れている。		
【今後の取り組みの方向性】 「未来を担う人材を育成する」ため、これまで、「学校教育の振興」「地域の教育力の向上」「こどもの参画の推進」と様々な施策を実施してきたところであり、全体としては順調に成果が表れており、市民からも一定の評価を得ていることから、良好な指標については、これまでの取組みを引き続き実施するとともに、第2次実施計画事業の「スクールソーシャルワーカーの拡充」や「学校施設の環境整備」などの着実な推進を図る。 これまでの学力状況調査の結果に基づいた分析を通して、指導法の工夫・改善に取組み、より一層「わかる授業」を推進し、客観指標「No.63.学力状況調査で県平均を上回るポイント数」の向上を図るとともに、客観指標「No.66.読書の習慣のある児童の割合」では家庭との連携を図った読書教育が課題であることから、第2次実施計画事業である「読書ノートの配布」「学校図書館活性化の推進」などにより、家庭と学校の両面から読書の習慣化に向けた取り組みを推進する。 今後は、「放課後子ども教室の推進」「学校支援地域本部の推進」「学校施設開放の推進」「こどもの参画の推進」などの、第2次実施計画事業の達成を目指すことはもとより、事業の進捗状況が成果指標の達成状況に直接的に結びついていない側面もあることから、地域連携の取組みを通して開かれた学校づくりを推進するとともに、広く市民に対し各事業の趣旨や効果を理解していただく広報や、事業の成果を実感していただく取組みを進める。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4. 5点以上、 B:3. 0点以上4. 5点未満、 C:1. 5点以上3. 0点未満、 D:0点以上1. 5点未満、 E:0点未満

生活実感・行動指標（％）

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
61	こどもが、学校でいきいきと学び、心身ともに健やかに成長している	69.1	70.0	73.0	75.0	77.4			◎	5
62	学校でのこどもの安全が守られている	59.5	61.0	63.0	65.0	61.7			◎	5
69	日頃、地域でこどもへの声かけや見守り活動を行っている	16.7	18.0	19.0	20.0	13.8			×	-1
70	市内の学校は地域に開かれている	40.6	44.0	47.0	50.0	40.0			×	-1
73	こどもが地域などで意見を述べる場・発言する場がある	11.5	16.0	20.0	25.0	12.8			△	1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
63	学力状況調査で県平均値を上回るポイント数(点)	2.2	2.4	2.5	2.6	1.1			×	-1
64	千葉県運動能力証の合格率(小学生)(%)	25.4	25.6	25.8	26	26.9			◎	5
65	千葉県運動能力証の合格率(中学生)(%)	23.6	23.9	24.2	24.5	26.3			◎	5
66	読書の習慣のある児童の割合(%)	45.6	47.5	50	52.5	45.2			×	-1
67	不登校児童の学校復帰率(%)	30.1	33.1	36.1	40	43.1			◎	5
68	不登校生徒の学校復帰率(%)	31.6	34	36.4	40	35.9			◎	5
71	学校セーフティウォッチャーの登録者数(人)	23,151	23,750	24,200	24,600	26,855			◎	5
72	放課後子ども教室参加率(%)	13	13.5	14	14.5	12.8			×	-1
74	こどもの参画事業参加人数(人)	279	350	440	550	331			○	3

平均点2.4

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
3－1－1	41	2	「スクールカウンセラー活用」や「学校施設の安全確保」などの数多くの事業で目標を達成した。
3－1－2	5	7	「学校セーフティウオッチ」については計画目標を達成するも、「放課後子ども教室」は、さらに少子超高齢化社会が進んでおり、多くの学校で人材不足や意欲低下が顕在化している。
3－1－3	14	3	「こども・若者のカフォーラム」で目標事業量を下回ったが、他の事業は概ね目標を達成した。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	3－2 生涯を通じた学びとスポーツ活動を支える
------	-------------------------

基本方針	市民の得た知識や経験により、より豊かな暮らしや、学習成果を生かせる社会が醸成されるよう、生涯を通じた学習やスポーツ活動を支えます。
------	---

担当局（区）	教育委員会 市民局 経済農政局
--------	---

評価区分	D	政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない
【評価の理由・説明】 「生涯学習の推進」の分野では、中間目標値を超えた指標が「生涯学習で学んだ知識や技術を地域や社会活動で活かしている」で、これは、「地域づくりにつながる学習講座の推進」「ちば生涯学習ボランティアセンターの運営」などの取組みを着実に進めていることが要因と考えられる。一方で、公民館や図書館などの生涯学習施設の老朽化や利用者の高齢化・固定化といった課題を抱えており、「No.75.この1年間に、生涯学習施設を利用したことがある」の数値は伸び悩んでおり、市民に生涯を通じた良好な学習環境を提供できていない状況にあり、これは客観指標「No.78.公民館を利用する市民の割合」「No.79.1人あたり貸出図書冊数」にも表れている。 また、個々の事業の成果である、客観指標「No.80.科学フェスタのイベント数」は大幅に向上しているにもかかわらず、「No.77.科学・技術に興味をもっている」の向上につながっていないのが現状である。 次に、「スポーツ・レクリエーション活動の推進」の分野では、「週に1回はスポーツ・レクリエーション活動を行っている」や客観指標「スポーツ・レクリエーション活動の参加者数」は中間目標値には届かなかったが、数値としては前回時よりも伸びており、各種スポーツ・レクリエーション団体との連携やスポーツ施設の整備・充実などに取り組んだ効果が一定程度表れていると考えられる。 また、「市内のプロスポーツチームやゆかりのあるスポーツ選手に親しみをを感じる」や客観指標、「ホームタウンチームのホームゲーム年間入場者数」は、トップスポーツとの連携の推進やQVCマリンフィールドの充実等、計画どおり実施しているものもあるが、数値としては前回より低くなった。これは、千葉ロッテマリーンズ及びジェフユナイテッド千葉の成績の低迷やライフスタイルの多様化による日常生活の中でのスポーツ関心度の低下などが要因と考えられる。		
【今後の取組みの方向性】 「生涯学習の推進」の分野は、第2次実施計画事業である「公民館の改築・改修」や花見川区役所への図書館機能の整備などのハード事業、「図書館の開館日・開館時間の拡大」などのソフト事業を着実に推進するとともに、市民ニーズに対応した講座やイベントの充実を図り、より身近で利用しやすい生涯学習施設としてサービスを提供することにより、市民の生涯学習環境の向上を図っていく。 次に、「スポーツ・レクリエーション活動の推進」の分野では、多くの市民がより使いやすいスポーツ・レクリエーション活動の場の提供に努めるとともに、誰もが気軽に関心を持ち参加機会が持てるよう情報発信や各種スポーツ・レクリエーション団体との連携、適切な施設管理に努めていく。 トップアスリートの高度な技量や挑戦は、人々に夢と感動を与え自らがスポーツを行うきっかけとなることが期待できることから、第2次実施計画事業でもある「トップスポーツとの連携の推進」において地域活動のコーディネイトや各チームとの連携強化を目的とした協定の締結を行うほか、市の広報媒体を利用したトップチーム等の活動情報の発信を行う。 さらには、ホームタウンチームのホームゲーム年間入場者数増加のため、関係機関と協力していくとともに、多くの市民の応援が得られるようなホームタウンの推進事業を引き続き実施する。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4. 5点以上、 B:3. 0点以上4. 5点未満、 C:1. 5点以上3. 0点未満、 D:0点以上1. 5点未満、 E:0点未満

生活実感・行動指標

（％）										
指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
75	この1年間に、生涯学習施設を利用したことがある	50.3	54.0	57.0	60.0	44.1			×	－1
76	生涯学習で学んだ知識や技術を地域や社会活動で活かしている	8.8	9.6	10.3	15.0	10.0			◎	5
77	科学・技術に興味を持っている	34.9	40.0	45.0	50.0	33.4			×	－1
81	週に1回はスポーツ・レクリエーション活動を行っている	29.1	35.0	40.0	45.0	29.7			△	1
82	市内のプロスポーツチームや市にゆかりのあるスポーツ選手に親しみをを感じる	40.1	43.0	47.0	50.0	36.5			×	－1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
78	公民館を利用する市民の割合(％)	21.5	24	－	30	21.4			×	－1
79	1人あたり貸出図書冊数(冊)	5.4	5.7	6.0	6.3	5.0			×	－1
80	科学フェスタのイベント数(事業)	173	200	225	250	322			◎	5
83	スポーツ・レクリエーション活動の参加者数(人)	4,447,491	4,463,000	4,478,000	4,498,000	4,449,333			△	1
84	ホームタウンチームのホームゲーム年間入場者数(千人)	1,544	1,650	1,720	1,780	1,423			×	－1

平均点	0.6
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
3－2－1	18	21	「科学都市戦略の推進」などは目標を達成するも、「公民館の改修」や多くの生涯学習施設の利用者数について目標値に至らなかった。
3－2－2	10	12	公園緑地の整備（蘇我スポーツ公園）、QVCマリンフィールドの充実、スポーツ施設の維持管理及び改修については計画どおり実施。高洲市民プールの整備は、予測を上回る労務単価や資材単価の高騰による工事費不足により入札が不調となっていたため、建設期間を2年間から3年間へ変更。スポーツ活動支援・スポーツ大会開催・学校体育施設の開放等は、ライフスタイルが多様化し余暇活動の選択肢が増える等、社会状況の変化に伴いスポーツ・レクリエーション活動を行う人が減少傾向にあることから、開催数・参加人数が減少している。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱

3－3 文化を守り、はぐくむ

基本方針

個性ある文化をはぐくむため、文化・芸術を振興するとともに、文化的財産の保全・活用を進めます。

担当局
(区)

市民局

教育委員会

評価
区分

D

政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない

【評価の理由・説明】

2つの指標(「No.85この1年間に、文化・芸術活動を行ったことがある」、「No.86文化・芸術に触れる場や機会を身近に感じる」)とも、中間目標値には届かなかったが、「No.88千葉市美術館入場者数(人)」は、中間目標値を38,972人上回ることができた。これは12回開催した企画展・所蔵作品展の平均入場者数が、1万2千人を超え、魅力的な展示事業を開催できたためと考えられる。

一方、「No.87文化ホール入場者数(人)」について、美浜文化ホールは中間目標値とほぼ同数の入場者を達成できたが、若葉文化ホールが約1万9千人中間目標値を下回った。これは空調設備工事のため、4か月間休館したことによる影響が大きいと考える。

さらに、市民1万人のまちづくりアンケート(平成27年1月実施)の結果を前回アンケート時(平成24年1・2月実施)と比較すると、「No.85この1年間に、文化・芸術活動をおこなったことがある」については、年齢別で10～40代の若年～子育て世代の減少幅が大きく(特に10代△6.2ポイント、親世代40～49歳△7.3ポイント)、「No.86文化・芸術に触れる場や機会を身近に感じる」についても、20代が△8.1ポイントと減少幅が大きいことから、これまで市が取り組んできた文化芸術振興の各種事業の内容やPRが、若い世代の関心を持つまでには弱かったため、生活実感・行動指標が伸びなかったものと考えられる。

次に、加曽利貝塚のイベント等の増加の影響により、客観指標「No.91.博物館の入館者」は伸びており、「No.90.市指定・登録文化財の件数」も増加しているにもかかわらず、「No.89.市の歴史や文化財に愛着を感じる」のような様々な取組みが融合して成果が表れる、総合的な指標の向上には結び付いていないのが現状である。

【今後の取組みの方向性】

「個性ある文化をはぐくむため、文化・芸術を振興する」ため、これまでも文化芸術振興計画に基づき様々な取り組みを実施してきたところであるが、多くの成果指標の値が伸びていないという結果は、事業の内容やPRが分かりづらいなど、不十分であることが考えられる。

一方、国においても、「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針:平成27年5月22日閣議決定)」で、2020年までの成果指標として「直近1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をしたことがある者の割合」の倍増を目指す(23.7%(2009年11月)→約40%(2020年))としている。

このようなことから、公募による文化芸術事業に対する補助金制度の周知に努め活動の活性化を図るなど、これまでの取組みを引き続き実施するとともに、市民による文化芸術活動への取組み及び文化芸術に触れる場や機会の増大を図るため、今年度策定中の次期文化芸術振興計画の施策においては、『子ども・若者』へ重点を置くとともに、あらゆる世代が、自ら主体として、文化芸術活動を行うための環境整備を図るとともに、多くの市民が面白さを共感できるよう、文化芸術の間口を広くし、日常的な活動への歩みを応援していく取組みを行う。また、千葉市文化センターを市の文化振興の拠点施設として位置付け、幅広い事業展開を目指す。

次に、「No.89.市の歴史や文化財に愛着を感じる」指標となる市民1万人のまちづくりアンケートの結果を分析すると、市の歴史や文化財に対して関心の薄い市民が多い状況がうかがえる。特に市内在住期間との関連性が顕著であり、在住期間が短い回答者ほど関心を持っていない傾向が強いことから、今後は、第2次実施計画事業の「加曽利貝塚の特別史跡指定」に向けた取組みを中心に、市民や関係機関等と連携し、観光的な視点を取り入れた活用や、ふるさと意識の醸成を図る。

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)

A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
85	この1年間に、文化・芸術活動を行ったことがある	19.3	21.0	23.0	25.0	17.9			×	-1
86	文化・芸術に触れる場や機会を身近に感じる	32.5	35.0	37.5	40.0	27.4			×	-1
89	市の歴史や文化財に愛着を感じる	39.9	41.5	47.5	50.0	38.3			×	-1

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
87	文化ホール入場者数(人)	129,187	132,000	135,000	138,000	112,746			×	-1
88	千葉市美術館入場者数(人)	104,000	107,000	110,000	113,000	145,972			◎	5
90	市指定・登録文化財の件数(件)	54	60	65	70	57			△	1
91	博物館の入館者数(人)	49,971	52,000	58,000	60,000	55,518			◎	5

平均点

1.0

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		
	達成	未達成	
3－3－1	7	9	文化芸術の分野は幅広くなってきており、またSNSやICTの普及・活性化により、鑑賞者も発信し多方向性の時代となってきたなど、社会状況が変化している中で、短期間で文化事業の内容を見直す必要があり、事業数の増加につなげられず、目標を達成できなかった。ホール関係施設の入場者数については、施設修繕による使用制限等により目標を達成できないものが多かったが、美術館の入場者については、魅力的な展示事業の開催により目標を達成することができた。
3－3－2	7	9	「加曽利貝塚の出土資料整理」当初計画を達成したが、追加資料の再整理を実施し第2次実施計画で総括報告書を刊行することとした。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱3－4 多彩な交流・連携による新たな価値を創る

基本方針国際化の推進や、大学・企業等の連携など、多彩な交流・連携によるまちづくりを進めます。

担当局（区）総務局総合政策局経済農政局

評価区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】 国際化の推進についてのうち、「千葉市を住みよいと感じる外国人市民の割合」は中間目標値を超えているが、「市の国際的なイメージが向上している」や「国際会議開催件数」については、中間目標値には届かず微増であり、現状では、本市に関するさまざまな情報や事業内容の国内外への発信力が不足していることを表している。 大学・企業等との連携については、市と大学・企業だけでなく、市民と大学との関わりも順調に増加しており、様々な主体の連携によるまちづくりの推進が目標通りに進んでいることがうかがえる。 大学との共同研究事業や企業との連携協定等が本市の行政課題解決に寄与するとともに、大学が地域志向にシフトする中で、市民にとって身近な知的資源として活用されてきているものと考えられる。		
【今後の取組みの方向性】 国際化の推進については、外国人市民と日本人市民相互の理解を深めていくことが重要であり、そのためには、さらなる交流機会の創出や積極的な情報提供等を行っていく。 また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、市民の関心の高まりや、来日する外国人旅行者の増加が見込まれる中、本市の国際的なイメージを向上させるためには、外国人旅行者の受け入れや外資系企業の進出、国際的なイベントの開催等を推進していく必要があり、あらゆる機会を捉えて市独自の情報発信やメディアを使ったPR等を行う。他にも、ボランティアの活躍の場の増大が予想されることから、これを機に、国際交流ボランティアの周知、拡充を図る。国際会議の誘致についても、近年競争が激しくなっているため、会議の助成や支援制度の充実だけでなく、都市の魅力を効果的なブランディングを行っていく。 大学・企業等との連携については、社会情勢の変化に伴い行政課題が多様化していく中、様々な主体と積極的に連携しまちづくりを進めてく。また、大学が市民に生きがいやキャリアアップ、地域貢献の手段等を提供し、市民もまちづくりに参加できる取組みを一層推進していく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標（％）

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
92	外国人市民と日本人市民の互いの理解が進んでいる	12.5	20.0	25.0	30.0	12.9			△	1
148	市の国際的なイメージが向上している	19.3	25.0	30.0	35.0	21.2			△	1
95	この1年間に、地域の大学と関わる機会があった	6.5	8.0	9.0	10.0	7.9			○	3

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
93	国際交流ボランティア幹旋件数(件)	541	650	850	1000	573			△	1
94	千葉市を住みよいと感じる外国人市民の割合(％)	63.6	65.0	70.0	75.0	70.1			◎	5
149	国際会議開催件数(件／年)	22	50	60	70	28			△	1
96	市と大学が連携して実施した取組数(事業)	51	80	110	140	162			◎	5
97	大学・企業等との連携協定数(件)	7	8	10	12	12			◎	5

平均点2.8

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
3－4－1	27	13	本市を住みよいと感じる外国人市民は多いものの、対外的には国際的イメージが弱いことから、積極的な情報発信を進めていく必要がある。
3－4－2	11	2	まちづくりの担い手として、様々な主体への期待が高まっており、「市と大学が連携して実施した取組数」と「大学・企業との連携協定数」は、連携が進んでいる。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	3－5 市民の力をまちづくりの力へ
------	-------------------

基本方針	市民が持てる力を発揮してまちづくりに取り組めるよう、市民参加・協働や男女共同参画を進めます。
------	--

担当局（区）	市民局
--------	-----

評価区分	D	政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない
【評価の理由・説明】 「市民参加・協働の推進」の分野では、中間目標値を超えた指標は「ちば市民活力創造プラザ登録団体数」で、平成26年度から指定管理者制度を導入し、旧ちば市民活力創造プラザ（現「千葉市民活動支援センター」）の運営を充実させるとともに、計画事業「市民公益活動支援システムの構築」により、NPO法人や任意団体等が積極的に地域活動等に取り組んだことが目標達成の要因と考えられる。 また、「この1年間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがある」については、目標値には届かなかったが前回時よりも伸びており、3年間の取組みの効果が一定程度表れていると考えられる。「地域課題に取り組む連携会議設置地区数」については、地域の理解が前提であり、協議や検討に時間がかかり、設置地区数が伸びなかった。 一方、「住民同士が、互いに協力して地域の課題の解決などに取り組んでいる」「市の提供する情報は分かりやすく、充実している」のような、様々な取組みが融合して効果が発生する総合的な指標は個々の取組みの効果が表れにくいことから、前回時よりも数値が下回っており、また、「町内自治会の加入率」についても、加入世帯数は増加しているものの世帯数の増加により加入率は減少傾向となっている。 次に、「男女共同参画の推進」の分野では、「附属機関の女性委員の割合」は、特定の専門的な分野における女性候補者が少ないため、中間目標値には届かなかった。「男女が共に個性と能力を十分に発揮している」の指標については、数値としてはH23年度末現状値を下回ってしまったが、29歳までの若い世代については、肯定的な意見の割合が高く、伸びていることから、取組みの効果が一定程度は表れていると考えられる。		
【今後の取組みの方向性】 「市民の力をまちづくりの力へ」を柱にこれまで、様々な取組みを実施してきたところであるが、市民の力がまちづくりの力となるには、「市民、自らが主役になり自らのまちを良くするんだ」といった意識の醸成が必要である。また、地域の課題を解決するには、将来に渡って住民同士の助け合い、支え合いによる地域運営を継続できる仕組みも必要であるため、地域運営委員会等の設立に向け、引き続き、地域に出向き、説明会等を行い、まちづくりの関心を高めていくとともに、（仮称）私のまちづくり条例の制定を目指し、市民と行政の役割を見直し、市民の行動原則やその取組みの方向性を定めていくことを検討していく。また、「町内自治会加入率」の増加に向けて、一定の条件を満たした管理組合を町内自治会と同様に扱うような、加入世帯数の増加策について引き続き検討していく。 また、ICTを活用した「ちばレポ」をはじめ、市民との協働により地域課題の解決に取り組むシステムを活用し、ボランティア活動を補助し、市民の生活実感指標を伸ばしていく。 さらには、「男女共同参画の推進」を図るため、これまでと同様に今後についても、社会全体の男女共同参画に関する更なる意識啓発を進めていく必要があるとともに、庁内職員への意識啓発や理解促進についても十分でないことから、これまでの取組みを引き続き実施していく。また、課題や現状認識は、社会情勢等により様々な変化することから、的確に対応しつつ、更なる分析を行い、効果的な対策を検討していく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4. 5点以上、 B:3. 0点以上4. 5点未満、 C:1. 5点以上3. 0点未満、 D:0点以上1. 5点未満、 E:0点未満

生活実感・行動指標

										(%)
指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
98	市の提供する情報は分かりやすく、充実している	28.2	32.0	36.0	40.0	28.0			×	－1
99	住民同士が、互いに協力して地域の課題の解決などに取り組んでいる	25.9	30.0	35.0	40.0	24.3			×	－1
100	この1年間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがある	22.2	27.0	31.0	35.0	23.2			△	1
105	男女が共に個性と能力を十分に発揮している	18.0	21.3	24.6	30.0	15.5			×	－1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
101	ホームページのセッション数（訪問回数）（千回）	5,634	7,500	9,500	11,500	10,138			◎	5
102	ちば市民活力創造プラザ登録団体数（団体）	543	663	783	903	683			◎	5
103	町内自治会加入率（%）	71.5	73.5	75.5	77.5	70			×	－1
104	地域課題に取り組む連携会議設置地区数（地区）	2	8	26	48	4			△	1
106	附属機関の女性委員の割合（%）	27.8	31.0	34.0	38.0	27.3			×	－1
107	男性が1週間で育児にかかわる時間（時間／週）	21.0	22.0	23.5	25.5	18			×	－1

平均点	0.6
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
3－5－1	27	14	「協働事業提案制度の実施」「市民公益活動支援システムの構築」「まちづくり活動団体への助成」について、計画内容どおり実施したが、少子超高齢化の進展に伴う、地域コミュニティの希薄化や地域活動の担い手不足などにより、目標数値の達成には至らなかった。
3－5－2	5	3	「男女共同参画の推進」「男女共同参画センター管理運営事業」「父親の育児参加の促進」「男女共同参画推進啓発事業」について、計画内容どおり実施したが、世代による固定的性別役割分担意識など様々な原因から、目標数値の達成には至らなかった。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	4－1 市民の安全・安心を守る
------	-----------------

基本方針	市民の安全・安心を守るため、災害に強いまちづくりや、交通安全・防災対策、消費生活の安定・向上などを進めます。
------	--

担当局（区）	総務局	市民局	建設局	消防局
--------	-----	-----	-----	-----

評価区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】 東日本大震災以降、学校や下水道、橋梁等の公共施設の耐震化の取組みを着実に進めるとともに、防災行政無線の改修等も順調に進捗している。「避難所運営委員会設置率」が中間目標値を超え、また、地域における避難行動要支援者の支援体制の構築も進んでおり、地域住民の自助・共助の意識向上が図られている。 一方、「災害に強いまちづくりが進んでいる」のような、さまざまな取組みの効果により総合的に判断される指標の伸びは鈍く、これは耐震診断・耐震改修助成の推進や家具転倒防止対策など市民に身近な事業において目標値に達していないことなどが、市民の実感として表れているものと考えられる。 消防・救急体制については、共同指令センターの整備など消防指令体制の充実や救命講習会の開催による応急手当の普及啓発など市民の防火防災意識が高まったこともあり、概ね目標を達成できている。 市民に身近な交通安全対策では、放置自転車対策の実施、自転車レーンや生活道路等の整備を順調に行ったことにより、「市内の道路は、歩行者や自転車が安全に走行できる」と感じる市民の割合が中間目標値を超えており、また、消費生活の安定・向上については、高齢者の消費者被害の増加や消費者の関心の高まりにより、「消費生活講座等の受講者数」が中間目標値を大きく上回っていると、考えられる。 防犯対策では、防犯パトロール隊員の高齢化などの影響により、防犯活動への参加率が減少している。 全体をとおしてみると、当施策の柱にかかる事業の進捗は概ね順調であり、それに関連する指標についても目標値を達成しているものが多かったが、「災害に強いまちづくりが進んでいる」や「市内の治安は良い」など、さまざまな取組みの効果や社会情勢の変化により総合的に判断される指標の伸びが低かったため、評価が伸びなかった。		
【今後の取組みの方向性】 学校施設の耐震化は完了したが、引き続き下水道や橋梁等の耐震化を推進する。 防災体制については、災害に強いまちづくりを市民がより実感できるよう、市民自身が主役である自主防災組織の結成を促進するとともに、すべての避難所において避難所運営委員会を設立することを目指し、町内自治会等への働きかけや支援を行う。また、「災害に備えて避難場所の確認や食料の備蓄、非常用持出品の用意などを行っている」値が伸びていないことに対しては、ホームページ等を活用した情報発信や市政出前講座での啓発等により、共助だけでなく自助の必要性を広く周知し、防災意識の醸成を図る。 市内の「交通事故死傷者数」は中間目標値を達成しているが、自転車が関係する事故の割合が高い状況であることから、交通安全教室、自転車安全利用講習会等による安全教育や普及活動により自転車の安全利用を促進すると同時に、警察や交通安全協会等との連携を強化していく。応急手当についても市民と協働した普及啓発を図るほか、ICTを活用した救急業務の推進等、質の高い消防行政サービスを市民へ提供する体制を構築する。 また、「消費者被害に関する情報提供や相談体制が充実している」と感じている割合が低いことについては、近年の消費者被害の増加がメディアで報じられ、消費者自身の関心が高まっている中で、相談窓口の存在の広報不足、情報提供や注意喚起が不十分であることが原因と考えられることから、消費生活センターでの相談や区役所での出張相談について改めて周知を図るとともに、消費者被害防止に関する有効な情報を市政だよりやホームページで提供する。加えて、子どもや高齢者などを狙った犯罪を未然に防ぐため、登下校時による安全確保や、振り込め詐欺防止のための普及啓発、街頭キャンペーンの実施などに取り組んでいく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)										
指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
108	災害に強いまちづくりが進んでいる	14.4	40.0	50.0	60.0	22.4			△	1
112	地域において、災害時の協力体制が整っている	25.5	35.0	45.0	60.0	32.8			○	3
113	災害に備えて避難場所の確認や、食糧の備蓄、非常用持出品の用意などを行っている	38.4	45.0	52.0	60.0	40.4			△	1
117	市の消防・救急体制が整っている	49.3	53.0	56.0	60.0	52.1			○	3
120	市内の道路は、歩行者や自転車が安全に通行できる	19.4	22.9	26.5	30.0	25.0			◎	5
123	市内の治安は良い	42.7	60.0	65.0	70.0	52.5			△	1
124	この1年間に、地域において防犯活動に参加したことがある	13.8	15.0	20.0	25.0	11.0			×	-1
126	消費者被害に関する情報提供や相談体制が充実している	11.9	15.0	20.0	25.0	14.0			○	3

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
109	耐震補強が必要な橋梁の改善率(%)	60.4	77.7	87.8	100	79.1			◎	5
110	下水道管の耐震化率(%)	32	45.2	58.5	76.2	43.1			○	3
111	駅や公共施設等を結ぶ道路等の無電柱化率(%)	51.6	54.0	56.0	58.5	54.2			◎	5
114	災害時地域支えあい事業取組団体数(団体)	66	138	246	438	71			△	1
115	自主防災組織結成率(%)	66.8	71.1	75.5	82.0	65			×	-1
116	避難所運営委員会設置率(%)	—	19.0	57.0	100	68.6			◎	5
118	建物の延焼率(%)	10.2	9.8	9.5	9.2	9.5			◎	5
119	心肺機能停止傷病者の救命率(%)	12.9	16.0	18.0	20.0	11.6			×	-1
121	交通事故死傷者数(人)	4,987	4,217	3,569	3,065	3,863			◎	5
122	放置自転車台数(台)	4,200	3,700	3,300	3,000	1,400			◎	5
125	刑法犯認知件数(件)	15,542	13,100	10,900	9,000	12,321			◎	5
127	消費生活講座等の受講者数(人／年)	400	460	520	580	567			◎	5

平均点	2.9
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
4－1－1	25	11	市内ではH25の台風による浸水被害などが起きた。 耐震補強が必要な橋梁や駅や公共施設等を結ぶ道路等の無電柱化などは、国の補正予算を積極的に活用し、中間目標値を達成した。
4－1－2	24	13	H26の大雪による帰宅困難者の発生した。 避難所運営委員会は緑区ですべての避難所に設立されるなど順調に進捗しており、引き続きすべての避難所での設立に向け取り組んでいく。
4－1－3	39	4	救命講習会の受講者数の大幅増加などの応急手当の普及啓発や消防団無線のデジタル化など消防団活動体制の充実などを推進してきた。
4－1－4	13	8	歩行者や自転車が安全に通行できる道路の整備については、概ね計画どおりに進捗している。引き続き、歩道の整備や交差点の改良を推進する。
4－1－5	13	18	地域の防犯活動への参加率が平成23年度末比で減少している。隊員の高齢化によるものが大きい。若年層へ参加の働きかけを行う。
4－1－6	6	0	高齢者向けの消費者被害が増加しており、消費者サポーター養成講座について、受講後の活動支援につながる仕組みづくりが必要である。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱

4－2 快適な暮らしの基盤をつくる

基本方針

市民の快適な暮らしの基盤づくりとして、計画的な土地利用や良好な都市景観の形成、市街地整備などを進めます。

担当局（区）

都市局 建設局

評価区分

D 政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない

【評価の理由・説明】

中間目標値を超えた指標は、「生活を支える上下水道や道路などを安心して使うことができる」と「耐震補強が必要な橋梁の改善率」であり、第1次実施計画において、上下水道施設、橋梁、歩道等の整備・耐震化などの取組みを着実に進めてきたことが要因と考えられる。

一方、「駅前など、市内の市街地は整備されて魅力的だと感じる」は、千葉駅西口の駅前広場や再開発ビルが完成し一定の魅力向上は図れたが、同駅舎の建替え工事が東日本大震災等の影響でスケジュールに遅れが生じていることなどから、指標の数値があまり向上していない。また、人口の増加と市街地の拡張が続いていることや、生活機能の立地状況等の要因から、市民が車を使わないことによる便利さを実感できていない。

「市内の街並みの景観は良好だと感じる」、「良好な景観形成推進を図る地区数」は、景観形成推進地区に指定した幕張新都心地区のある美浜区では前回よりも数値が向上したが、全体的としてはH23末と比較して数値が下がっている。さらに、「市内の住環境は良好だと感じる」、「高齢者の暮らしているバリアフリー化率」、「耐震性のある住宅の割合」は、バリアフリー化や耐震改修を行った住宅の戸数は着実に増えているものの、整備の進捗以上に建築物所有者の高齢化が進み、所得が減少していることや改修費用に多額の費用を要することなどから、指標の数値にほとんど変化がなく、全体的に評価の向上につながっていない。

【今後の取組みの方向性】

千葉駅及び周辺の市街地整備については、同駅の建替工事、エキナカ施設、JR・モノレールの連絡通路など全ての施設の供用開始が平成30年夏以降を目指しており、また、西口地区第二種市街地再開発（B工区）も整備完了までしばらく時間を有する状況である。そのため、短期間で「駅前など、市内の市街地は整備されて魅力的だと感じる」など関連する成果指標の向上を目指すことは困難な状況にあるが、第2次実施計画などに基づき、着実に取組みを進め、完成後はより充実した施設として利用可能なものとし、駅及び周辺の魅力向上のみならず、交通や買物の利便性の向上にもつなげていく。また、集約型都市構造への転換を見据えた、本市の都市づくりの将来像や方向性を「都市計画マスタープラン」で示していく。

このほか、市内の住環境に関する取組みについては、所有者の改修費用の負担が一番の課題であるため、助成事業の情報提供を行うとともに、特に、耐震改修については、他市の制度を調査・研究し、より利用しやすい制度への改善を進めるなど、バリアフリー化率、耐震化率の向上を図っていく。また、上下水道や道路などの生活基盤の整備については、老朽化した污水管や橋梁などの更新・耐震化、道路の安全性・利便性の向上を図る必要があるため、第2次実施計画において、引き続き、各施設の整備、改良、耐震化などを、ライフサイクルコストの観点を踏まえ計画的に進めていく。

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）

A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
128	駅前など、市内の市街地は整備されて魅力的だと感じる	31	40	45	50	32.1			△	1
129	買物などの日常の外出は、車を使わなくても便利だと感じる	48.2	50.4	52.6	55	46.8			×	-1
130	市内の街並みの景観は良好だと感じる	37.1	39.7	42.3	45	36.3			×	-1
132	市内の住環境は良好だと感じる	54.8	57	59.3	60	54.8			△	1
135	生活を支える上下水道や道路などを安心して使うことができる	62.8	65.2	67.6	70	68.2			◎	5

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
131	良好な景観形成の推進を図る地区数(地区)	0	2	3	4	1			△	1
133	高齢者の暮らしている住宅のバリアフリー化率(%)	38.9	49.7	-	75	38.8			×	-1
134	耐震性のある住宅の割合(%)	84.4	88.6	90.0	95.0	85.9			△	1
136	下水道汚水処理普及率(%)	97.2	97.6	97.7	97.8	97.2			△	1
109	耐震補強が必要な橋梁の改善率(%)	60.4	77.7	87.8	100	79.1			◎	5

平均点

1.2

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況			主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成		
4－2－1	8	5		「千葉駅西口地区第二種市街地再開発」により、再開発ビル（A工区）及び駅前広場を供用開始したが、「JR千葉駅建替えの推進」は、東日本大震災の影響により、資材調達、受注業者の確保が一時困難となり、工事スケジュールに遅れが生じた。
4－2－2	1	1		今後10年間の市の都市計画の基本的な方針を定める「都市計画マスタープラン」の素案を作成した。郊外部において、公共交通の利用者数が減少している地域があり、減便や撤退が発生している。
4－2－3	1	2		景観形成推進地区を1地区指定した。
4－2－4	17	9		「市営住宅の整備」は、ほぼ目標事業量を達成したが、「耐震診断・耐震改修助成の推進」は、東日本大震災から3～4年経過し申請数が減少している。
4－2－5	23	6		下水道施設や橋梁などの耐震化、舗装や側溝の新設・改良について、ほぼ目標事業量どおり達成した。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	4－3　ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる
------	-------------------------

基本方針	ひと・モノ・情報が活発につながる基盤づくりとして、総合的な交通ネットワークの形成や人にやさしい移動環境の創出、ICTを活かした利便性の向上を進めます。
------	---

担当局（区）	建設局	都市局	総務局	保健福祉局
--------	-----	-----	-----	-------

評価区分	B	政策の目的達成に向けかなり成果が現われている
【評価の理由・説明】 公共交通ネットワーク及び道路ネットワークの形成については、「公共交通機関の利用者数」、「市内の道路は、車でスムーズに移動できる」の指標で中間目標値を上回った。これは、鉄道やバスなどを使いやすく安全に安心して利用できるよう環境整備を実施したことや、市内主要道路の整備完了等により利用者の利便性が向上したこと等が要因と考えられる。しかし、「市内の公共交通は利用しやすい」で指標の値が下がったことは、千葉駅建替工事や、バス運行に関する取組みが十分進んでいない要因が考えられる。 また、人にやさしい移動環境の創出については、歩道の段差解消等、用地取得に時間を要し遅延している事業があるものの、駅構内のバリアフリー化を着実に推進したことや、障害者に対する理解促進の取組みを行ったこと等により、概ね目標を達成できている。 ICTを活かした利便性の向上については、「庁内情報システム最適化によるコスト削減」が中間目標値を上回ったほか、公共施設予約システムの導入や戸籍事務の電子化等の取組みを計画どおりに進めたことが「ICTの活用が進み、市のサービスは利用しやすい」との実感の向上に寄与したものとする。一方で、「電子申請サービスの利用率」は、利用可能な手続数を拡大したため、全体として利用率は低下した。		
【今後の取組みの方向性】 バス運行に関する取組みについては、第2次実施計画において、引き続き、利用者数が減少している郊外部での地域参画型コミュニティバス等の導入について地域住民への説明会等の実施や、バス利用者の利便性を向上するためのバスロケーションシステムの導入促進に取り組んでいく。 道路ネットワークの形成については、用地取得の遅れなどにより未達成となった事業への理解、協力が得られるよう交渉を進めるとともに、安定的な財源の確保に取り組んでいく。また、国や千葉県が主体となって行っている事業については、早期に事業効果が発現されるよう、支援を行っていく。 高齢者や障害者など、すべての人の移動を円滑化するためには欠くことの出来ない重要な事業であるバリアフリー化について、ハード面では、鉄道駅のエレベーター施設の設置や、千葉市バリアフリー基本構想で定められた生活関連経路における電線共同溝などについて、引き続き着実に整備を実施していくとともに、遅延している事業について、引き続き歩行者等の安全確保を図るために事業協力が得られるよう取り組んでいく。一方ソフト面では、障害者福祉大会の一般市民の観覧応募者数や、「心の輪を広げる体験作文」の応募者数をさらに増やすことによって、障害者に対する理解のある方を増やしていくことが課題であり、「ふれあいコンサート」など新たな取組みを実施するなど、市民の「心のバリアフリー」の更なる促進に努めていく。 さらに、ICTを最大限に活用し市民の利便性の向上を図るため、全体最適の視点から個々の業務を抜本的に見直す業務プロセス改革を推進して滞在時間が最少の区役所、来庁せずとも手続きが完了する区役所を目指す窓口改革や、証明書のコンビニ交付などを進めるとともに、社会保障・税番号制度などの仕組みを活用した新たなサービスの提供に向けた取組みを進めていく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)										
指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
137	市内の公共交通は利用しやすい	49.8	51.5	53.3	55.0	48.9			×	-1
139	市内の道路は、車でスムーズに移動できる	40.7	46.0	46.5	50.0	47.0			◎	5
141	公共の場でのバリアフリー化が進んでいる	34.5	36.3	38.2	40.0	33.6			×	-1
142	移動に困っている人を見かけたときなど、ちょっとした心づかいができる	57.2	58.0	59.0	60.0	60.2			◎	5
144	ICTの活用が進み、市のサービスは利用しやすい	24.4	28.0	35.0	50.0	27.0			○	3

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
138	公共交通機関の利用者数(千人)	704	現状維持 (704)	現状維持 (704)	現状維持 (704)	743			◎	5
140	幹線道路における混雑区間の延長(km)	67.7	－	59	55	67.7				
143	鉄道駅のバリアフリー化率(%)	92	95.0	97.0	100	95.0			◎	5
111	駅や公共施設等を結ぶ道路等の無電柱化率(%)	51.6	54.0	56.0	58.5	54.2			◎	5
145	庁内情報システム最適化によるコスト削減(百万円)	－	57	249	1055	138			◎	5
146	電子申請サービスの利用率(%)	20	22.0	25.0	29.0	19.3			×	-1

平均点	3.0
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
4－3－1	3	7	「バス活性化システムの整備」等バス運行に関する取組みが目標値には至らなかったものの、「モノレールの更新(車両更新)」については目標を達成した。
4－3－2	30	24	主要地方道浜野四街道長沼線(若葉区更科町)や都市計画道路美浜長作町線等の市内主要道路の整備や、菅田駅周辺のまちづくり事業の完了により、利用者の利便性が向上した。
4－3－3	9	6	超高齢化を迎え、より人にやさしい移動環境の創出を図ることが求められており、歩道の改良等の事業が遅延したが、鉄道駅等のバリアフリー化や電線共同溝、踏切道の安全対策について着実に事業を実施した。
4－3－4	7	0	ICTを活用した利便性の高い行政サービスの提供が市民・行政双方に求められており、公共施設予約システムの導入、戸籍事務の電子化、情報システムの最適化等の取組を計画どおり進めることができた。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	5－1 都市の魅力を高める
------	---------------

基本方針	まちの魅力を高めるため、3都心などの魅力向上や、都市の国際性の向上、観光の振興などを進めます。
------	---

担当局 (区)	経済農政	都市局	総務局
------------	------	-----	-----

評価 区分	D	政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない
【評価の理由・説明】 都市の魅力を高めるため、千葉都心では、千葉駅西口の「WESTRIO」のオープンや千葉ポートパークでの「千葉市民産業まつり(千葉湊大漁まつり)」の開催、幕張新都心では、大型の民間商業施設の完成や幕張海浜公園での花火大会開催(幕張ビーチ花火フェスタ)、蘇我副都心では、蘇我スポーツ公園整備による多目的グラウンドの整備など、魅力向上やにぎわいを創出する取組みを実施してきた一方で、海辺の活性化の取組みである稲毛海浜公園や千葉中央港地区の旅客船さん橋が整備段階であることから、3都心などの魅力向上に資する一部指標の数値が伸びなかったと考えられる。 また、都市の国際性の向上について、県及びちば国際コンベンションビューローと連携して国際会議開催の誘致を進めているが、誘致競争は厳しさを増していることから、開催件数が増加できておらず、また、外国人留学生数については、平成23年度末と比較し、約1割の減となっていることなどから、国際性の向上に資する指標の数値が伸びなかった。 さらに、観光の振興の度合いを測る指標の一つである、入込観光客数について、幕張メッセでのイベント開催数が減少したことによる入場者数の減や、その影響によりメッセ周辺施設の入場者数も減少したこと、また、天候不順等により、「千葉国際クロスカントリー大会」などのイベントが中止となったこと、千葉市中心市街地まちづくり協議会が支援するイベントの減少などにより、指標の数値が伸びなかった。		
【今後の取組みの方向性】 市内の魅力発掘や各種媒体を活用した情報発信を行うことで、本市のイメージ向上に取り組んでいくとともに、市民に市内施設やイベントを積極的にPRすることにより来場を促していく。具体的には、千葉ポートタワーにおける、周辺施設と連携した入館料に寄与するイベントの企画や、動物公園における、リスタート構想に基づく整備などに取り組むほか、千葉中央港地区(旅客船さん橋、ターミナルなど)や千葉駅建替えの促進などのハード面の整備を引き続き実施し、一層の機能充実や都市の魅力向上を図っていく。 さらに、海辺のイメージや国際的なイメージなどの本市の魅力や幕張メッセで国際会議を開催することのメリットなどの情報発信が不足していることから、市内の大学や関係機関と連携し、外国人にとって過ごしやすい、住みやすいまちであることを積極的にPRする。また、グローバルMICE強化都市への国からの支援を活用して、海外の展示会への積極的な参加や海外情報誌への掲載などの取組みにより、幕張メッセの稼働率を上げていく。		

生活実感・行動指標

										(%)
指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
147	市内で食事や買物、レジャーを十分に楽しむことができる	55.4	58.7	59.4	60.0	58.5			○	3
5	市内の海辺に魅力を感じる	36.8	41.0	46.0	50.0	37.9			△	1
148	市の国際的なイメージが向上している	19.3	25.0	30.0	35.0	21.2			△	1
151	市内には家族や友人と行きたい施設やイベントがある	36.7	39.0	42.0	45.0	36.4			×	-1

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
149	国際会議開催件数(件/年)	22	50	60	70	31			△	1
150	外国人留学生数(人)	990	1,120	1,270	1,470	894			×	-1
152	入込観光客数(千人)	19,754	25,000	26,000	27,000	22,537			△	1

平均点	0.7
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況			主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成		
5－1－1	16	3		花火大会や千葉市民産業まつりなどのイベントの開催により、魅力向上やにぎわいを創出する取組みを実施。
5－1－2	12	7		国際会議の開催件数について、都市間における誘致競争の厳しさが増している。 本市在学の留学生数の割合が多かった中国・韓国からの留学生数が2割減少。
5－1－3	23	6		幕張メッセでのイベント開催数の減少や、それに伴う周辺施設の入場者数の減少のほか、天候不順などにより入場者が目標値を下回った。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	5－2 地域経済を活性化する
------	----------------

基本方針	地域経済を活性化するため、産業・商業などの振興や新事業の創出、勤労者の支援等を進めます。
------	--

担当局 (区)	経済農政局
------------	-------

評価 区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】 産業の振興については、新規企業立地件数及びそれに伴う市民雇用人数が目標値を大幅に上回る結果が出ている。これは、企業誘致・立地促進活動を通じて把握したニーズや社会経済情勢等を考慮し、柔軟かつ迅速な対応を重ねてきているものであり、当該取組みが着実に成果を上げてきているものと思われる。また、これらの取組みにより「働きたい人が働ける場がある」と感じる市民の割合は前回よりも向上した。 新事業の創出については、市インキュベート施設卒業企業の存続数や雇用増加数などにおいて、目標値を下回る結果となったが、特に経営基盤の弱いベンチャー企業は景気の影響を受けやすく、消費税増税の影響やアベノミクスによる経済効果の波及に時間がかかっていることなどが要因と考えられる。 商業・サービス業の振興や物流・港湾機能の強化の指標である年間消費販売額や市場年間取扱金額については、経済のグローバル化や産業構造の転換、消費者ニーズの多様化のほか、東日本大震災による消費の冷え込みの長期化やデフレによる販売額の抑制などから、23年度末現状値から低下している。 全体として、施策ごとの取組みにより大幅に効果が上がった施策と、社会経済情勢等の影響により効果が上がらなかった施策が混在した結果の評価となっている。		
【今後の取組みの方向性】 新基本計画に対応した個別部門計画として平成24年度に策定した「地域経済活性化戦略」において、本市の産業政策の方向性を示していたが、策定時からの経済社会環境の大幅な変化により、実状と合わなくなっている面が生じていたことから、改めて本市の産業を取り巻く現状と取るべき対応（課題）を分析し、本市の経済成長を目指す上で重点的に取り組んでいく施策と、各施策の事業展開の方向性について、より具体的に示す「経済成長アクションプラン」を平成26年度に策定した。今後は、これに基づき、新事業・新産業の創出、企業の経営革新と産業人材の育成、地域商業・サービス産業の振興を図る各種取組みを引き続き推進していく。さらに、第2次実施計画においても新たに「スタートアップ支援の強化」に取り組むことにより、市インキュベート施設卒業企業が市内企業として確実に定着し、成長していけるような支援を行っていく。 なお、平成23年度末の現状値を下回っている年間商品販売額については、安全安心な商業環境の整備や商業活動の活性化を推進するとともに、市民主体の地域経済活動の振興を図るため、コミュニティビジネスなどの取組みを支援していく。 また、市場年間取扱金額については、平成26年度に策定した「市場経営展望」に基づき、市場の活性化に向けて、場内事業者とともに取り組んでいく。		

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
162	日常の買物で近所の商店を利用している	60.9	64	67	70	48.8			×	－1
165	市内には、働きたい人が働ける場がある	16.2	19	22	25	22.3			◎	5

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
153	市内総生産額(億円)	29,798	32,000	32,500	35,000	29,905			△	1
154	事業所数(事業所)	30,806	31,250	31,700	32,300	32,575			◎	5
155	姉妹・友好都市との企業の相互進出件数(件)	0	10	20	30	2			△	1
156	新規企業立地件数(件)	－	17	32	H30に 目標値 設定	81			◎	5
157	新規立地企業の納税額(かつこ内は、市補助額を含めた企業立地の効果額〔税収額と市補助額の差引額〕)(百万円)	－	59(▲33)	173 (62)	H30に 目標値 設定	173 (105)			◎	5
158	新規立地企業の市民雇用人数(人)	－	158	407	H30に 目標値 設定	1,087			◎	5
159	市インキュベート施設卒業企業存続数(社)	48	69	195	463	68			○	3
160	市インキュベート施設卒業企業法人市民税納税額(千円)	646	6,700	30,400	94,700	3,385			△	1
161	市インキュベート施設卒業企業の雇用増加数(人)	－	115	444	1,295	51			△	1
163	年間商品販売額(億円)	37,210	現状維持 (37,000～ 38,000)	現状維持 (37,000～ 38,000)	現状維持 (37,000～ 38,000)	28,894			×	－1
164	市場年間取扱金額(百万円)	38,506	現状維持 (38,000～ 39,000)	現状維持 (38,000～ 39,000)	現状維持 (38,000～ 39,000)	37,132			×	－1

平均点	2.2
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
5－2－1	24	4	社会情勢の変化に応じて柔軟に補助制度の拡充を図り、企業立地実績が堅調に伸びており、それに伴い市民雇用者数も増加している。
5－2－2	9	0	指標を構成する事業はすべて達成されているが、新事業の主体となる中小・小規模事業者は、消費税の増税など景気の影響を受けやすい。また、アベノミクスによる経済効果が中小・小規模事業者にまで波及するのに時間がかかっている。
5－2－3	4	5	郊外に立地する大型店やインターネット通販の普及などにより、身近な場所である近所の商店から買物をする機会が減りつつある。経済のグローバル化や産業構造の転換、消費者ニーズの多様化のほか、震災以来の消費の冷え込みの長期化、デフレ等により、市内の商品販売額が抑制。
5－2－4	3	0	少子高齢化などによる食料消費・小売形態の変化や市場外流通の増大などにより、市場取扱高が低下している。
5－2－5	5	2	若年者・留学生向け合同企業説明会を年1回開催する「雇用対策の推進」など、指標を構成する事業は概ね達成されている。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱5－3 都市農林業を振興する

基本方針都市農林業の振興を図るため、農畜産物の安定供給や農業経営体の育成、農村と森林の持つ多面的機能の活用などを進めます。

担当局（区）経済農政局

評価区分

B

政策の目的達成に向けかなり成果が現われている

【評価の理由・説明】

千葉市産の農畜産物を買いたいと思う市民の割合は、目標値を上回っており、これは、消費者の健康志向及び食品に対する安全志向の高まりにより、地元の生産者の見える農産物への志向が高まったことによるものだと考えられる。一方で、営農指導数については、平成26年2月の大雪被害により巡回指導以外の業務が増大したため、計画どおり指導することができなかったことにより、目標値を下回る結果となったが、農畜産物の安定供給がある程度図られた結果と考えられる。

また、農林業に従事する担い手の高齢化によりに離農が進んでいるものの、安定した農業経営体の育成を進めるため、耕作放棄地の再生整備の取り組みを実施し、結果として、営農再開面積が増加している。

農村と森林の持つ多面的機能の活用については、市民農園の利用面積が高くなっている一方、農業・農村を身近に感じる割合があまり向上していないことや、里山の保全活動参加者数が目標値に達しなかったことから、市民に対するPR等が十分ではなかったと考えられる。

全体として、施策ごとの取り組みにより、効果が大きかったものと、一定程度あったものが混在した結果の評価となっている。

【今後の取り組みの方向性】

農畜産物の安定供給を進めるため、市場出荷の農産物は、市内産品であるかわかりにくいとため、市内産品の表示方法を見直すなど、千葉市産農産物生産者認証者制度の課題を整理するとともに、市内産農産物を市民が購入できる機会が増えるよう流通等の課題を整理し、さまざまな販売店での取り扱いを増やしていく。

また、安定した農業経営体の育成のため、営農再開面積については、今後も耕作放棄地整備事業により荒廃した農地を作付可能な状態に再生するため、再生にかかる経費の一部を補助したり、再生した後の作付が比較的に容易な作物を栽培している農家に対し、趣旨を説明し、事業の活用につなげ、耕作放棄地の再生を推進していく。

さらに、農村と森林の持つ多面的機能の活用を進めるため、市民農園・観光農園を積極的にPRするとともに、農家レストランの開設等を検討していくほか、里山の保全活動については、森林の果たす役割や保全の重要性、森林ボランティアの魅力や意義をイベントや広報活動により市民に伝えていく。

これらの取り組みを進めることにより、都市農林業の振興を図っていく。

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
A:4. 5点以上、 B:3. 0点以上4. 5点未満、 C:1. 5点以上3. 0点未満、 D:0点以上1. 5点未満、 E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
166	千葉市産の農畜産物を買いたいと思う	67.2	69.0	72.0	75.0	75.7			◎	5
169	市内の農業・農村を身近に感じる	29.5	32.5	35.5	40.0	30.4			△	1

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
167	営農指導数(件/年)	296	400	420	440	298			△	1
168	営農再開面積(ha)	3.8	5.9	8.0	10.8	6.7			◎	5
170	市民農園利用面積(市民100人あたり)(㎡)	4.10	4.50	4.70	5.00	4.93			◎	5
171	里山の保全活動参加者数(人)	111	200	400	600	150			△	1

平均点3.0

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
	達成	未達成	
5－3－1	7	6	消費者の健康志向及び食品に対する安全志向の高まりにより、千葉市産の農畜産物への志向が高まった。
5－3－2	1	1	耕作放棄地の増大や農業従事者の高齢化、担い手不足など、農業を取り巻く環境は厳しい状況にある。
5－3－3	12	1	市民農園の開設に係る補助事業の実施等により、市民農園利用面積を計画的に増設することができた。また、森林ボランティア団体は高齢化が進み、活動が困難になる状況がみられる。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	中央区基本計画
------	---------

基本方針	都心のにぎわいと 人々の優しさを感じるまち 中央区
------	------------------------------

担当局 (区)	中央区
------------	-----

評価 区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】 刑法犯認知件数については、住民の防犯意識の高まりが功を奏し、目標を達成することができ、自主防災組織の防災訓練実施率については、平成24年度より地域住民主体の訓練としたことなどが影響し、わずかながら目標に到達することができなかった。 また、地域マネジメント推進事業数については、目標を下回っているが、平成26年度までは事業運営主体の掘り起こしと運営主体の効果的な運営モデルの検証に注力したためである。 さらに、町内自治会加入率(中央区)については、自治会加入世帯数はわずかに増加したものの、世帯数全体の増加に追いついていないことから、加入率の減少を招いている状況である。		
【今後の取組みの方向性】 刑法犯認知件数については、目標を達成しており、引き続き区民に周知・参加を呼びかけ、最終目標達成に向けて事業の推進を図るとともに、自主防災組織の防災訓練実施率については、おおむね目標を達成しており、引き続き目標達成に向けて事業の推進を図る。 また、地域マネジメント推進事業数については、平成26年度末時点では1事業(地区)であるが、平成27年度に1事業(地区)追加され、平成28年度末には3事業(地区)となる見込みである。今後、先行2事業(地区)の運営状況を検証し、運営モデルを確立したうえで、他地区での事業運営主体の設立の促進を図る。 さらに、町内自治会加入率(中央区)については、近年、単身若しくは2人世帯などの少人数世帯が増加していると思われることから、そのような世帯が比較的多く居住する小規模集合住宅へのアプローチを視野に対応を検討していく。		

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
172	刑法犯認知件数(中央区)(件)	4,733	4,100	3,500	3,000	4,085			◎	5
173	自主防災組織の防災訓練実施率(%)	29.6	40	50	60	38.4			○	3
174	地域マネジメント推進事業数(事業)	1	3	5	7	1			△	1
175	町内自治会加入率(中央区)(%)	70.5	71	71.5	72	67.7			×	-1

平均点	2.0
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
中央区	6	0	全体的には、順調に事業進捗が図られているが、町内自治会の加入率について、加入世帯数は減少していないものの、少子超高齢化の進展により、世帯数全体が増加したことにより、加入率が減少している。 人口は6区の中で最も多く、様々な施設等があり、勤務先や商業拠点としても、県内最大の吸引人口を有している。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	花見川区基本計画
------	----------

基本方針	みんなの力で 川と緑と笑顔が輝くまち 花見川区
------	----------------------------

担当局 (区)	花見川区
------------	------

評価 区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている
【評価の理由・説明】 中間目標値を超えた指標が「地域主体型防災訓練参加者数」で、これは、「区内の自治会連絡協議会でのPR」や「避難所運営委員会の設立増」により防災訓練に対しての意識が高まったことが要員と考えられる。 また、防犯ウォーキングボランティア登録数、「朝市・来場者数」は、中間目標値には、届かなかったが防犯ウォーキングボランティアは、ボランティア保険の対象外となったため、登録者数が減少し、朝市&カフェは、8月が荒天のため開催が中止 となったことが、要因と考えられる。		
【今後の取組みの方向性】 地域主体型防災訓練は、引き続き区内自治会連絡協議会や避難所運営委員会等でPRを行い、訓練の参加者を増やし、防犯ウォーキングについても、区内自治会連絡協議会、防犯研修会、区主催のイベント等でPRし、登録者の募集をしていく。 また、朝市の賑わいをだすため、来場者を呼び込む企画や滞在時間を延ばす対策として出店数の増加やイベント開催等を検討していく。		

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)
A:4. 5点以上、 B:3. 0点以上4. 5点未満、 C:1. 5点以上3. 0点未満、 D:0点以上1. 5点未満、 E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
176	地域主体型防災訓練参加者数(人)	192	780	1,380	2,170	818			◎	5
177	防犯ウォーキングボランティア登録数(花見川区)(人)	1,583	2,370	3,160	4,220	1,940			△	1
178	「朝市」来場者数(人)	2,640	2,870	3,110	3,430	2,696			△	1

平均点

2.3

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
花見川区	4	1	「地域主体型防災訓練」については、計画内容通り実施。「朝市」について、8月の荒天により、1回未実施だったため、目標を達成していない。 市の平均より少子化傾向であり、大規模団地では高齢化が進んでいる。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	稲毛区基本計画
------	---------

基本方針	思いやりと笑顔があふれ 人・地域・文化が交流する 文教のまち 稲毛区
------	--

担当局 (区)	稲毛区
------------	-----

評価 区分	D	政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない
【評価の理由・説明】 町内自治会の加入率については、町内自治会長へ自治会加入促進パンフレットを配布したほか、千葉県宅地建物取引業協会千葉支部の協力により、転入者へ町内自治会に関する情報提供を行ったものの、マンションの新設事業者に対して町内自治会結成のPRが十分にできなかったことが考えられる。 また、防犯パトロールの登録者数については、平成26年度末の防犯ウォーキングボランティア保険適用除外に関する通知を登録中止届出書を登録者全員に送付したところ中止者が続出し、参加者の高齢化も要因となり、平成26年度末の登録者数が減少したことと考えられる。 さらに、「文教のまち」を活かしたまちづくり活動団体数については、市政だより・ホームページへの掲載や公民館など公的機関での募集要項の配架などの対応を行ったものの、大学生に対する周知が十分にできなかったことが考えられる。		
【今後の取組みの方向性】 町内自治会の加入率については、マンションの新設に係る開発行為の事前協議の際に、マンションの管理組合名義でも町内自治会と同様の取扱いができる旨を説明し、町内自治会の結成及び加入率の向上を図る。 また、防犯ウォーキングの登録者数については、貸与品の帽子の着用に抵抗を感じる若者や女性が多いとの指摘もあることから、貸与品にネッカチーフ等を加えボランティア登録者の増加を図る。 さらに、「文教のまち」を活かしたまちづくり活動団体数については、まちづくりを研究している学生団体に、制度の情報提供を行うため、大学事務局と協議し、活動団体数を増やしていく。		

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
179	町内自治会加入率(稲毛区)(%)	74.9	75.2	75.5	75.9	73			×	-1
180	防犯ウォーキングボランティア登録数(稲毛区)(人)	1,907	2,200	2,500	2,900	1,990			△	1
181	「文教のまち」を活かしたまちづくり活動団体数(団体)	8	50	95	155	20			△	1

平均点	0.3
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
稲毛区	2	2	区内には多くの大学や高校があり、若い世代が在学・在住している。 「文教のまち」を活かしたまちづくり活動団体数の増加については、目標値を達成することはできなかったものの、町内自治会の加入啓発広報、大学連絡調整会議の開催については、概ね目標値を達成することができた。なお、防犯ウォーキングボランティアについて、参加者の高齢化や平成27年度からの保険適用除外の影響により、登録者数が減少した。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	若葉区基本計画
------	---------

基本方針	豊かな自然環境と地域資源を活かし 魅力と活力と誇りのあるまち 若葉区
------	---------------------------------------

担当局 (区)	若葉区
------------	-----

評価 区分	A	政策の目的達成に向け十分成果が現われている
【評価の理由・説明】 中間目標値を超えた指標は、「高齢者支え合い組織結成数」、「刑法犯認知件数」、「ウェブサイト若葉区から情報発信ホームページアクセス数」の3指標である。「高齢者支え合い組織結成数」は、自治会への説明会を積み重ねてきたことで地域での支え合いの重要性が認知され、組織の結成に繋がったと考えられる。また、「刑法犯認知件数」は、「防犯ウォーキングボランティア」が、年々増加していることにより、犯罪の抑止効果が図られ、地域の犯罪件数が減少したものと考えられる。また、「ウェブサイト若葉区から情報発信ホームページアクセス数」は、若葉区内の市の施設、若葉区民や区内の中学生の協力を得て、多くの魅力ある情報を発信できたことが要因と考えられる。 一方、「魅力提供サポーター登録人数」については、中間目標値に届かなかった。これは、SNSなど個人でも幅広い情報発信を行える仕組みが一般化したことや、投稿サイト「ジモバナ」が市全域で本格運営されるなど、目標設定時には想定できなかった情報発信ツールが浸透したことで情報発信の仕組みとしての価値が低下していることが考えられる。また、ホームページを作成する行為自体が一般的に難しく感じられることも要因の一つであると推測される。		
【今後の取組みの方向性】 中間目標値を超えた3指標については、基本的にこれまで行ってきた取組みを継続していくことになるが、目標達成に向けて新たな取組みも検討していく。「高齢者支え合い組織結成数」は、活動に積極的な自治会は支え合い組織を結成してくれたが、今後は結成に至らない自治会への説明が必要になるため、提案の方法を検討していく。 「刑法犯認知件数」では、ボランティア登録者数の伸び悩みと、ボランティアの高齢化により活動中止者も増えることが予想される。このため、帽子に替わる貸与品として、若者や女性受けする貸与品の導入を検討する。また、地域の防犯パトロール組織の結成や育成に力を入れ、なおいっそう刑法犯認知件数が減少するよう努力していく。 目標値に満たなかった「魅力提供サポーター登録人数」については、ホームページを作成する魅力提供サポーターの募集を引き続き行いつつも、情報発信方法として専用ホームページだけでなく、新たに魅力情報を発信するツールとして始まった「ジモバナ」での発信も行っていく。		

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)
A:4.5点以上、 B:3.0点以上4.5点未満、 C:1.5点以上3.0点未満、 D:0点以上1.5点未満、 E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
182	高齢者支えあい組織結成数(組織数)	10	70	130	202	82			◎	5
183	刑法犯認知件数(若葉区)(件)	2,500	2,080	1,730	1,350	1,807			◎	5
184	「魅力提供サポーター」登録人数(人)	-	25	40	60	22			○	3
185	ウェブサイト「若葉区から情報発信」ホームページアクセス件数(件)	-	1,900	3,400	5,000	4,673			◎	5

平均点	4.5
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
若葉区	8	0	市内で最も高齢化が進展する。 数多くの文化財・史跡が存在する。また市動物公園は、県内最大級の規模を誇る動物公園として市民の憩いの場となっている。 「若葉区の魅力伝承」については、計画内容どおりに実施し、ウェブサイトへのアクセス件数は大幅に増加している。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	緑区基本計画
------	--------

基本方針	豊かな自然と地域の特性を活かし みんなが助けあい 住み続けたいまち 緑区
------	---

担当局 (区)	緑区
------------	----

評価 区分	D	政策の目的達成に向けあまり成果が現われていない
【評価の理由・説明】 「町内自治会加入率」、「自主防災組織結成率」及び「防犯パトロール隊の結成数」ともに中間目標値(H26末中間値)に達することが出来なかった。各指標の向上を図るため、説明会や資料配布など新規結成に向けた働きかけを行っているが、目標値には届いていない。原因としては、町内自治会、自主防災組織ともに団体数は増加しているが、指標の算出根拠となっている緑区の世帯数が加入世帯数と比較して、大幅に増加していることが数値が上がらない要因となっている。 また、防犯パトロール隊の結成については、高齢化などの要因により、解散・休止する防犯パトロール隊数が多く、結成数の増加の妨げとなっている。		
【今後の取組みの方向性】 区内の開発業者・住宅販売会社等に対して入居者との契約時に、自治会加入・新規結成について周知を依頼するなど、より一層連携強化を図っていく。 また、分譲マンションを対象として、引き続きリーフレットの配布等により、地域活動を行っている管理組合を町内自治会と同様に取り扱うことが出来る旨の制度の説明や自主防災組織についての周知を図り、個別に説明会を実施していく。 さらに、各地区町内自治会連絡協議会と更なる連携を図り、町内自治会の加入促進や新規設立に向けての活動と併せて、自主防災組織及び防犯パトロール隊の結成についての働きかけを強力に行っていく。		

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
186	町内自治会加入率(緑区)(%)	56.6	61.0	65.5	71.5	56.8			△	1
187	自主防災組織結成率(緑区)(%)	51.5	56.0	60.5	66.5	52.4			△	1
188	防犯パトロール隊の結成数(団体)	90	99	108	120	88			×	-1

平均点	0.3
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
緑区	5	2	おゆみ野・あすみが丘など新しいまちと、自然環境に恵まれた地域が混在している。新しいまちは区外からの転入者の割合が高く、地域のつながりが持ちにくい状況となっている。そのような状況の中、町内自治会及び自主防災組織とも新規結成による団体数は増えているが、緑区内の人口増に伴う世帯数の増加により町内自治会加入率、自主防災組織結成率は上がっていない。

様式

政策評価シート【総括票】

施策の柱	美浜区基本計画
------	---------

基本方針	美しい浜辺と様々な交流のある みんなで創るにぎわいと活力のあふれるまち 美浜区 ～住んでみたいまち、ずっと住みたいまちを目指して～
------	---

担当局 (区)	美浜区
------------	-----

評価 区分	B	政策の目的達成に向けかなり成果が現われている
【評価の理由・説明】 中間目標値を超えた「刑法犯認知件数」では、「美浜区安全会議」や「防犯ウォーキング」等の市民による防犯活動の取組みを着実に進めていることが要因の一つと考えられる。 また、「町内自治会加入率」は住民との合意形成に時間を要したため中間目標値には届かなかったが、数値としては前回時よりも伸びており、「マンション管理組合への説明」等の3年間の取組みの効果が一定程度表れていると考えられる。 一方、「稲毛海浜公園の利用者数」は様々な要因が複合的に作用したものと考えられ、数値としては前回時よりも増加しているが伸び率は低く、中間目標値に届かなかった。		
【今後の取組みの方向性】 防犯ウォーキングについては、登録者が減少しているため、配布物などの見直しを行い、登録者の獲得に努め、地域の絆づくりや安全安心なまちづくりを推進していく。 稲毛海浜公園の利用者数の増加については、天候などの不確定要素に影響されやすいという課題もあるが、「海辺のグランドデザイン」策定による海辺の活性化を推進するほか、今後も美浜区の区民フェスティバル等のイベントを活用し、貴重な資源である海辺の魅力づくりを推進する。		

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)
A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

生活実感・行動指標

(%)

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数

客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
189	稲毛海浜公園の利用者数(千人)	832	1,072	1,103	1,146	882			△	1
190	町内自治会加入率(美浜区)(%)	74.7	76.2	77.7	79.7	75.6			○	3
191	刑法犯認知件数(美浜区)(件)	2,069	1,830	1,620	1,380	1,722			◎	5

平均点	3.0
-----	-----

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
美浜区	5	4	一人暮らしの高齢者が中央区と並んで多くなっている。日本一長い人工海浜と、幕張や稲毛の海浜公園を、イベントで活用できる。 「美浜区安全会議」について、事業内容を変更し、区内の全地区の代表と関係する行政機関を集めて、犯罪の抑止強化に努めた。 マンション管理組合に対する町内自治会活動についての働きかけは、説明会の開催に努めており、その目標回数を概ね達成している。